



**THE NIPPON
FOUNDATION**

For Social Innovation

日本財団いのち支える自殺対策プロジェクト

『日本財団自殺意識調査 2016』 報告書

全国編

はじめに

日本財団は、子ども、障害者、高齢者、災害等の分野で支援活動を行う財団です。私たちは 2016 年に「日本財団いのち支える自殺対策プロジェクト」を立ち上げました。なぜ日本財団が自殺対策に取り組むのか。それは私たちの問題意識として、日本では依然自殺で亡くなる方が多い点にあります。

日本では、2016 年の1年間で約2万1千人の方が自殺で亡くなっています。一日あたりにすると 60 人が自殺で亡くなっていることになります。そして日本の自殺率は、先進7カ国で突出して高く、若者の死因の第1位が自殺であるのは、日本のみです[1]。これは異常事態であり、困難を抱え、追い込まれた状況になっても、生きる意思があれば、生きられる社会をつくるということは、日本財団の活動理念にもつながります。

もう1点「日本財団いのち支える自殺対策プロジェクト」の実施の背景にある大きな点は、2016 年4月に、自殺対策基本法が大きく改正された点にあります。この大改正では、すべての都道府県・市区町村に「自殺対策の計画づくり」が義務化されました。そのような背景から、日本財団では、改正された自殺対策基本法に基づいて、全国のけん引役となる自治体と協力して、自殺に追い込まれる人を減らすための「自殺対策実践モデル」を構築し、それを全国の取り組みに役立ててもらうことを目的に、本プロジェクトを立ち上げました。

現在このような「自殺対策実践モデル」構築事業を長野県と東京都江戸川区で行っておりますので、日本の自殺に関する実態の解明が重要と考え、『日本財団自殺意識調査』を計画いたしました。また、毎年9月10日は、WHO 世界自殺予防デーであり、かつ9月10日から16日が自殺予防週間でありますので、このタイミングにおいて幅広く自殺予防について啓発したいという思いから、2016 年9月8日にこの調査結果(速報値)を公表いたしました。

本調査の目的は、本調査の実施を通して、自殺対策の必要性について社会の機運を醸成し、日本財団をはじめ、自殺対策を実施する自治体や民間団体が、施策や事業をより促進していくことをめざしています。

調査の対象は、全都道府県、全年代、性別において比較するには、統計学的に4万人の回答が必要であるため、調査委託先会社が持つ約 225 万人の登録モニターに対して、「あなた自身に関するアンケート」と題し配信し、十分な分析ができる4万人の回答を得るまで、アンケートの配信を実施いたしました。その結果、1週間の配信期間において、全都道府県の 20 歳以上の男女 44,255 人から回答を得ることができました。その回答者のうち、回答時間が8分以下である回答者等を除外した結果、有効回答数は 40,436 となりました。

また本調査は、2016 年5月のゴールデンウィーク明けに企画を立ち上げ、2016 年6月 22 日よりアドバイザー委員会を中心に調査票作りを行い、2016 年8月2日から8月9日まで、「あなた自身に関するアンケート」と題し、調査委託会社が持つ約 225 万人の登録モニターに配信いたしました。

この報告書は、2016 年9月に公表した調査結果について、より詳細をまとめたものです。日本全国でどれくらいの方が本気で自殺を考えたことがあるか、また自殺未遂の経験があるか、まとめることができました。実際に自殺で亡くなった人をはるかに上回る規模で、自殺を考えたことがある人や自殺未遂を経験している人が存在していることがわかりました。

本調査は自殺意識に関する調査であり、実際に自殺で亡くなった人に関するデータではありません。今後自殺対策に取り組む自治体や民間団体が効果的な施策や事業を実施するにあたり、様々な自殺に関する統計資料とあわせて、本意識調査に関するデータが基礎情報として、広く活用されることを望みます。

2017 年3月

日本財団 ソーシャルイノベーション本部 国内事業開発チーム

芳川龍郎、服部紗代

メディア発信時における注意事項

本調査の内容を新聞、ニュース、ウェブサイト等のメディアで発信する際は、自殺報道ガイドラインに従い、自殺を誘発したり、ご遺族等を傷つける恐れのある不適切な報道はくれぐれも控えていただきますよう、ご注意ください。

必読：自殺報道ガイドライン：p.33

目次

はじめに.....	1
10のファクト.....	5
1 調査概要.....	7
日本財団自殺意識調査チーム	7
調査実施委託機関.....	7
調査方法	7
調査期間	7
調査対象	7
調査項目	8
回答数及び有効回答数	8
回収条件・有効回答の基準.....	8
集計方法	9
2 回答者の内訳・属性.....	10
3 調査結果.....	14
セクション1: 日本全国における自殺に関する経験.....	14
①. 自殺念慮	14
②. 自殺未遂	17
③. 身近な人の自殺	20
セクション2: 自殺念慮・自殺未遂のリスク	21
④. 自殺念慮・自殺未遂を経験する割合が高い人の特徴.....	21
⑤. 自殺未遂経験のある若年層(20～39 歳)の特徴.....	24
⑥. 自殺の危機要因(自殺リスクを高める要因)	26
⑦. 自殺の抑制要因(自殺リスクを抑える要因)	27
セクション3: 自殺念慮・自殺未遂への対処方法.....	31
⑨. 自殺念慮・自殺未遂を思いとどまった理由	31

⑩. 相談について.....	32
4 参考文献.....	33
5 本調査結果のメディアでの使用・自殺に関する報道における注意点.....	34
6 補足資料.....	35
7 相談窓口一覧.....	49
謝辞.....	50

10のファクト

1



4人に1人が
「本気で自殺したいと考えたことがある」

2



自殺未遂経験者は
全国53万人超
(推計)

3



5人に1人が
身近な人を自殺で亡くしている

自殺念慮や自殺未遂のリスクが高い人は

4

身近な人を自殺で
亡くした人

他者は頼れず、
人間同士は理解・共感
できないと考えている

理想と現実の幸福感
のギャップが大きい

死への恐怖感が低く、
生を全うさせる意志が希薄

5

若者層(20～39歳)は
最も自殺念慮や自殺未遂の
リスクが高い世代



6

自殺のリスクを
高める要因は
家族等からの虐待
生活苦
家族の死亡
アルコール依存
負債(多重債務等)など



7

自殺のリスクを
抑制する要因は
自己有用感
社会的問題解決力
共感力



8

住み続けたい人が
多い地域は
自殺念慮や自殺未遂の
リスクが低い地域



9



本気で死のうと思ったものの
思いとどまった理由

10



半数以上が
自殺念慮や自殺未遂を経験しても
相談しない

1 調査概要

本章では、本調査の概要について説明する。

日本財団自殺意識調査チーム

本調査の実施にあたり、日本財団は 2016 年6月 22 日(水)に「日本財団自殺意識調査チーム」を立ち上げた。調査の企画・設計、質問票作成、有効回答基準の設定、回収データの集計・分析、本報告書作成は本チームによって実施されている。

【アドバイザーボード】

高橋義明(アドバイザーボードリーダー/公益財団法人世界平和研究所 主任研究員)
清水康之(NPO 法人自殺対策支援センターライフリンク(以下、NPO 法人ライフリンク) 代表)
崎坂香屋子(帝京大学大学院 公衆衛生学研究科 准教授)
田辺俊介(早稲田大学文学学術院 准教授)

【チームメンバー】

根岸親(NPO 法人ライフリンク 副代表)
堀遼一(NPO 法人ライフリンク)
小牧奈津子(NPO 法人ライフリンク/慶応義塾大学 大学院 SFC研究所 上席所員)
芳川龍郎(日本財団 ソーシャルイノベーション本部 国内事業開発チーム チームリーダー)
服部紗代(日本財団 ソーシャルイノベーション本部 国内事業開発チーム)

調査実施委託機関

調査の実施(データ回収やクリーニング等)及び報告書作成については、株式会社 RJC リサーチに委託し、協力を得た。

調査方法

インターネット調査

調査期間

2016 年8月2日(火)～2016 年8月9日(火)

調査対象

全都道府県 20 歳以上の男女(20～50 代の各年代、60～64 歳、65 歳以上)

※株式会社 RJC リサーチが提携する調査会社(「楽天リサーチ」等)に登録するモニターを対象に、調査会社がメールにて回答を依頼した。回答者には報酬として通貨ポイント等が提供される。

※調査開始(2016 年8月2日)時点の登録パネル総数:2,247,550

調査項目

- 1) 基本属性(Q1～3)
- 2) 心に関する尺度、社会とのつながり、自己有用感、問題解決能力について(Q4～19)
- 3) ライフイベント(現在、過去の出来事、これまでに経験したこと)について(Q20, 21)
- 4) 身近な人間関係について(Q22～27)
- 5) 居住形態、就学・就業、健康状況について(Q28～38)
- 6) 死生観、自殺に関する意識・経験について(Q39～50)
- 7) 家計の状況について(Q51～53)

回答数及び有効回答数

回答数: 44,255 件

有効回答数: 40,436 件

集計対象数: 40,413 件 ※「集計方法 2) 性別」を参照

回収条件・有効回答の基準

1) 回収条件の設定

各都道府県における性・年代別の集計が可能な回答数を得るため、下記の回収条件(割付)を設定。

居住都道府県(47 区分) × 年齢(6区分)* × 性別(2区分)*

*年齢(6区分): 20～29 歳、30～39 歳、40～49 歳、50～59 歳、60～64 歳、65 歳以上

*性別(2区分): 男性、女性

各都道府県の人口比に合わせて回収すると、人口やある特定の年齢層が少ない都道府県の回答者が極端に少なくなり、県別の比較が難しくなる。そのため、実際の人口・性別・年齢の構成比よりも多くサンプルを集める方法(オーバーサンプリング)を採用し、上記の各回収条件につき 50 サンプルを上回るように回収を続けた。最終的に、回答者数 44,255 を確保した。

2) 有効回答の基準

全回答者から①モニター登録時と回答された年齢または性別が不一致、②回答時間が極端に短い人(8分間)を除外し、有効回答数 40,436 件を分析の対象とした。①については、回答した年齢または性別が登録時と相違する者は同一選択肢連続回答率(複数の回答欄が連続する設問で同じ数字を続けて回答する割合)が統計的に有意に高かった。②は回答時間が短い程、同一選択肢連続回答率が高い。8分間未満の人を除外した場合に、全体の不良回答率が1割以下(6.7%)となるため、有効回答から除いた[2]。

集計方法

1) 人口構成比

都道府県別に有効な集計と比較を行う目的で、実際の年齢・性別・都道府県別人口構成比よりも多いサンプルを回収するオーバーサンプリングを設定した。そのため、集計の段階では、『平成 27 年国勢調査抽出速報集計結果[3]』（以下、国勢調査）に基づき、実際の年齢・性別・都道府県別人口構成比に合わせて集計した（ウェイトバック集計）。したがって、本調査結果の集計値における回答者数や回答比率（%）は国勢調査の人口構成比に合わせたウェイトバック集計後の数値となる。

2) 性別

Q3の性別を問う質問にて、「男」「女」「その他」を選択肢とし、「その他（23 件）」を回収した。しかし、国勢調査において「その他」の選択肢がなく、集計誤差も大きくなるため、集計対象からは除外している。したがって、本報告の集計値で使われているサンプル数は男女のみ 40,413 件となる。

※[2][3]・・・「4 参考文献」参照のこと

2 回答者の内訳・属性

本章では、本調査の回答者の内訳と属性を示す。※ここでの「回答者」は、集計対象である「その他(23件)」を除く40,413を指す。

本調査はインターネット調査会社に登録しているモニターを対象としている。母集団である国民一般から無作為に対象者を選んでいない(無作為抽出ではない)ため、登録モニターの属性や特性に偏りがあり、国民一般を反映していない可能性がある[2]。しかし、従来の面接・郵送による調査も、若者を中心とするプライバシー意識の高まりにより無回答者が増え、誤差が拡大している可能性が指摘されている。また、インターネット調査ではポイント稼ぎが目的で不正確な回答をする可能性が高いとの意見もあるが、郵送調査等でも謝礼が支払われており、その点で相違は少なく、先行研究でも謝礼の回答への影響はみられないとされている[2]。

以下は、本調査における性・年代別、居住地域別、同居人別、雇用形態別、収入別の集計結果と、国勢調査等の集計結果とを比較した表である。各調査との比較の結果、本調査結果は、一部留意事項はあるものの、日本の自殺念慮・自殺未遂経験の状況を示す代表性を有しているといえる。

1) 性・年代別

本調査の性・年代別の回答者数と割合は下記のとおりである。

	男性		女性		総計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
20～29歳	2,280	(11.3)	3,105	(15.3)	5,385	(13.3)
30～39歳	3,291	(16.4)	3,495	(17.2)	6,786	(16.8)
40～49歳	3,906	(19.4)	3,887	(19.1)	7,793	(19.3)
50～59歳	3,443	(17.1)	3,492	(17.2)	6,935	(17.2)
60～64歳	2,661	(13.2)	2,237	(11.0)	4,898	(12.1)
65歳以上	4,510	(22.4)	4,106	(20.2)	8,616	(21.3)
計	20,091	(100.0)	20,322	(100.0)	40,413	(100.0)

※本報告書では、小数点第二位以下を四捨五入しているため、各年代%の合計値が100%にならないことがある。

国勢調査の人口比と比較すると、本調査の集計結果は 60 代前半の男性の割合がやや高く、男女ともに 65 歳以上の割合が低い。高齢者のインターネット利用率が低いことから対象となるモニター数が少なかったことが影響していると考えられる。

		国勢調査2015			日本財団調査 2016		差
		回答数	%	期待標本数	回答数	%	
男性	20～29歳	6,455,700	(13.0)	2,614	2,280	(11.3)	-1.7
	30～39歳	7,817,400	(15.8)	3,165	3,291	(16.4)	0.6
	40～49歳	9,204,700	(18.5)	3,727	3,906	(19.4)	0.9
	50～59歳	7,636,700	(15.4)	3,092	3,443	(17.1)	1.7
	60～64歳	4,104,700	(8.3)	1,662	2,661	(13.2)	5.0
	65歳以上	14,405,900	(29.0)	5,832	4,510	(22.4)	-6.6
	計	49,625,100	(100.0)	20,091	20,091	(100.0)	-

		国勢調査2015			日本財団調査 2016		差
		回答数	%	期待標本数	回答数	%	
女性	20～29歳	6,130,900	(11.4)	2,315	3,105	(15.3)	3.9
	30～39歳	7,629,800	(14.2)	2,881	3,495	(17.2)	3.0
	40～49歳	9,069,500	(16.9)	3,424	3,887	(19.1)	2.3
	50～59歳	7,701,900	(14.3)	2,908	3,492	(17.2)	2.9
	60～64歳	4,274,500	(7.9)	1,614	2,237	(11.0)	3.1
	65歳以上	19,015,600	(35.3)	7,180	4,106	(20.2)	-15.1
	計	53,822,200	(100.0)	20,322	20,322	(100.0)	-

※期待標本数とは、国勢調査等の人口比率を日本財団調査の総回答数に当てはめた際に期待できる回答数である。

※小数点第二位以下を四捨五入しているため、「差」が計算値と一致しないことがある。

内閣府においても『自殺対策に関する意識調査(以下、内閣府調査)』を平成 20 年度と平成 23 年度に実施し、約 2,000 人を対象に自殺念慮等について質問している[4]。2011 年の内閣府調査と調査時の人口(住民基本台帳による)を比較したところ、内閣府調査では若年層(特に 30 代男性)の割合が低く、60 代の割合が高い点で、本調査とは大きく異なっている。内閣府調査の調査方法は、調査員が訪問して質問票を渡し、後日再訪して回収する「留置法」であったため、学校や職場等へ外出していることが多い若年層に回答の機会が少なく、定年後で在宅時間が比較的長い 60 代に回答の機会が多かったことが原因であると考えられる。一方、本調査では、調査方法としてインターネット調査を採用したため、対象から外れがちであった若年層や単身世帯にアプローチすることができたと考えられる。(補足資料 2-1:平成 23 年度(2011 年)内閣府調査の回答者内訳(実施時の住民基本台帳との比較))

2) 居住地別

国勢調査の人口比における期待標本数と、居住地別の回答数の割合に大きな差はなく、回答者の分布に偏りは見られない。(補足資料2-2:都道府県別の回答者内訳(2015年国勢調査との比較))

	国勢調査2015			日本財団調査 2016		差
	回答数	%	期待標本数	回答数	%	
北海道	4,488,700	(4.3)	1,754	1,731	(4.3)	-0.1
東北	7,409,000	(7.2)	2,894	2,826	(7.0)	-0.2
関東	35,195,800	(34.0)	13,750	13,958	(34.5)	0.5
北陸・東山・東海	18,838,900	(18.2)	7,360	7,319	(18.1)	-0.1
近畿	16,762,000	(16.2)	6,548	6,618	(16.4)	0.2
中国・四国	9,189,500	(8.9)	3,590	3,498	(8.7)	-0.2
九州	11,563,900	(11.2)	4,518	4,463	(11.0)	-0.1
計	103,447,800	(100.0)	40,413	40,413	(100.0)	-

※参考:2011年内閣府調査における回答者の分布

	総務省人口推計2011			内閣府調査2011(平成23年度)		差
	回答数	%	期待標本数	回答数	%	
北海道	4,580,000	(4.4)	88	96	(4.8)	0.4
東北	7,606,000	(7.2)	146	169	(8.4)	1.1
関東	35,349,000	(33.7)	679	637	(31.6)	-2.1
北陸・東山・東海	17,635,000	(16.8)	339	401	(19.9)	3.1
近畿	18,613,000	(17.7)	358	303	(15.0)	-2.7
中国・四国	9,437,000	(9.0)	181	190	(9.4)	0.4
九州	11,791,000	(11.2)	226	221	(11.0)	-0.3
計	105,011,000	(100.0)	2,017	2,017	(100.0)	-

3) 同居者の有無別

国勢調査では85.0%が「同居人あり」と回答し、本調査でも82.5%が「同居人あり」と回答しており、同様の分布となっている。

	国勢調査2015			日本財団調査 2016		差
	回答数	%	期待標本数	回答数	%	
いる	88,548,188	(85.0)	34,319	33,312	(82.5)	-2.5
いない	15,665,940	(15.0)	6,072	7,079	(17.5)	2.5
無回答	-		-	22	-	-
計(無回答除く)	104,214,128	(100.0)	40,391	40,391	(100.0)	-

4) 雇用形態別

雇用形態別では、2015 年労働力調査の集計結果と比較すると、本調査では「常勤で勤めている人」、「自営業主(雇有業主、一般雇無業主、自由業)」の割合がやや高く、「専業主婦・主夫」「無職」の割合がやや低かったが、全体の分布に大きな相違はない。

	労働力調査2015			日本財団調査2016		差
	回答数	%	期待標本数	回答数	%	
勤めている(常勤)	3,303	(31.5)	12,739	13,465	(33.3)	1.8
役員	347	(3.3)	1,338	892	(2.2)	-1.1
勤めている(パート・アルバイト)	1,311	(12.5)	5,056	4,761	(11.8)	-0.7
派遣契約嘱託	529	(5.0)	2,040	2,449	(6.1)	1.0
雇有業主	523	(5.0)	2,017	2,771	(6.9)	1.9
一般雇無業主						
自由業						
内職者	13	(0.1)	50	47	(0.1)	0.0
家族従業者	159	(1.5)	613	334	(0.8)	-0.7
その他	109	(1.0)	420	154	(0.4)	-0.7
専業主婦・主夫	1,519	(14.5)	5,859	13,640	(33.8)	-2.4
無職	2,266	(21.6)	8,740			
学生	180	(1.7)	694	613	(1.5)	-0.2
失業	213	(2.0)	822	1,251	(3.1)	1.1
無回答	6	(0.1)	23	36	(0.1)	0.0
計	10,478	(100.0)	40,413	40,413	(100.0)	-

5) 収入別

収入別では、本調査における年収 200 万円未満の人の割合が 2015 年家計消費状況調査の集計結果よりもやや高くなっているが、全体の分布に大きな相違はない。

	家計消費状況調査2015			日本財団調査2016		差
	回答数	%	期待標本数	回答数	%	
200万円未満	3,134	(6.6)	2,678	4,125	(10.2)	3.6
200万円～	5,651	(12.0)	4,828	3,654	(9.1)	-2.9
300万円～	6,997	(14.8)	5,979	5,753	(14.3)	-0.6
400万円～	6,026	(12.8)	5,149	5,633	(14.0)	1.2
500万円～	5,312	(11.2)	4,539	4,860	(12.0)	0.8
600万円～	4,334	(9.2)	3,704	3,980	(9.9)	0.7
700万円～	4,010	(8.5)	3,426	2,914	(7.2)	-1.3
800万円～	3,061	(6.5)	2,615	2,770	(6.9)	0.4
900万円～	2,613	(5.5)	2,233	1,378	(3.4)	-2.1
1000万円～	3,276	(6.9)	2,799	3,132	(7.8)	0.8
1250万円～	1,384	(2.9)	1,182	501	(1.2)	-1.7
1500万円～	894	(1.9)	764	958	(2.4)	0.5
2000万円以上	531	(1.1)	454	692	(1.7)	0.6
無効回答	-	-	-	63	-	-
計(無効回答を除く)	47,223	(100.0)	40,350	40,350	(100.0)	-

3 調査結果

セクション1：日本全国における自殺に関する経験

セクション1では、日本全国における自殺念慮、自殺未遂、身近な人の自殺経験に関する集計結果を報告する。

①. 自殺念慮

1) 人数

全国で、4人に1人(25.4%)が本気で自殺したいと考えたこと(以下「自殺念慮」)があると回答した。性別では、女性(28.4%)が男性(22.6%)に比べて自殺念慮を抱いた割合が高く、統計学的に有意な差が見られた。年代別では、若い世代になるほど自殺念慮を抱いた割合が高いことが分かった。(補足資料

①-1：性・年代別の自殺念慮)

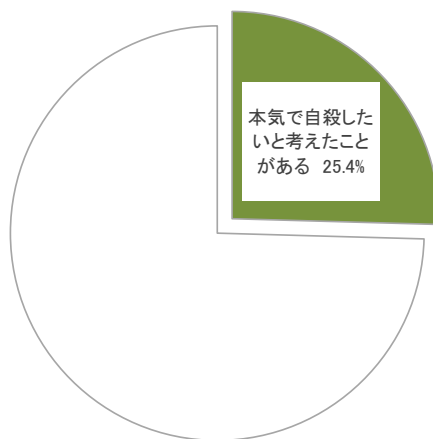


図1：自殺念慮(全国)

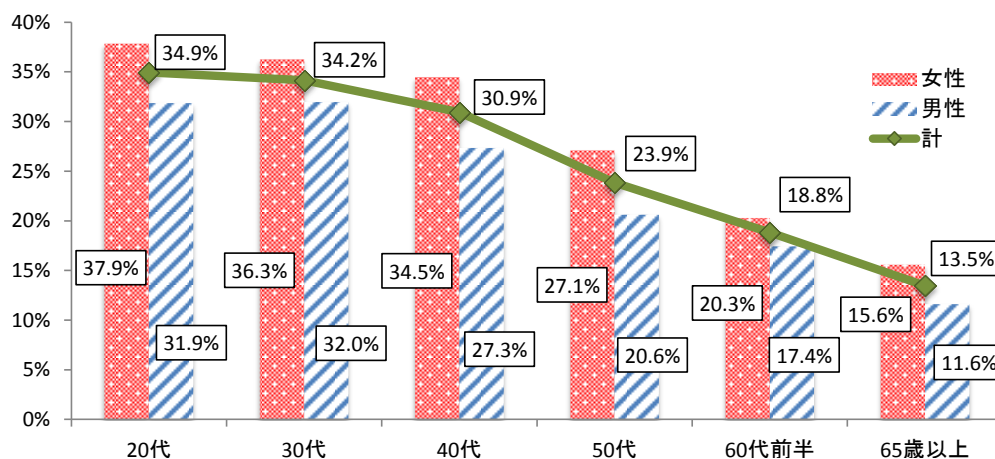


図2：性・年代別の自殺念慮

2) 時期

現在または過去において自殺念慮を抱いたことのある人のうち、過去1年以内(「いま現在」または「1年以内」)に自殺念慮を抱いた人の割合は 13.5%(回答者全体の 3.4%)であり、なかでも、いま現在自殺念慮を抱いている人は 6.2%(回答者全体の 1.6%)であった。過去1年以内に自殺念慮を抱いた人の割合についても、若年層が他の年代と比較して高いが、性別については男性の方が高い傾向があった。(補足資料①-2: 性・年代別の自殺念慮の時期)

内閣府実施の『自殺対策に関する意識調査(平成 20、23 年度)(無回答を除く※)』と本調査において、自殺念慮を抱いたことがある人(過去・現在含む)の割合は、ほとんど差が見られない(平成 20 年度:21.3%、平成 23 年度:25.1%)。性・年代別に比較しても、自殺念慮を抱いた人の割合は女性が男性と比べて高く、20 代男女の割合が他の世代と比較して最も高い点等、本調査結果と同様の集計結果が出ている。

一方、過去1年以内に自殺念慮を抱いた人の割合は、内閣府調査(平成 20 年度:21.1%、平成 23 年度:23.0%)に比べて、本調査結果はやや低い。その背景に、内閣府調査時から自殺者数は年々減少しており、自殺念慮を抱いた人数も減少していることが推察される。また、質問方法が異なる影響も考えられる。内閣府調査では「最近1年以内に自殺したいと思ったことがありますか」という質問に対して「はい」、「いいえ」という二択であるのに対し、本調査では、自殺念慮が「最も最近起こったのはいつ頃か」という質問に対して、「いま現在」、「1年以内」、「5年以内」、「10年以内」、「20年以内」、「30年以内」、「30年より前」と時期を答える形式となっており、過去1年以内に自殺念慮を抱いたとしても、より強く抱いた時期が過去にあればその時期を選択した可能性がある。

※本調査では回答を望まない者は回答中止できるため、比較にあたって内閣府調査の無回答は除外しており、内閣府が公表している資料の数値とは相違している。

内閣府調査2011(平成23年度)				日本財団調査2016			
	回収数	自殺念慮あり(無回答除く)			回収数	自殺念慮あり(無回答除く)	
		人数	%			人数	%
男性	937	179	(20.1)	男性	20,439	4,618	(22.6)
20歳代	97	22	(23.9)	20～29歳	2,667	849	(31.9)
30歳代	131	27	(20.9)	30～39歳	3,376	1,079	(32.0)
40歳代	172	39	(23.5)	40～49歳	3,871	1,058	(27.3)
50歳代	160	35	(22.9)	50～59歳	3,287	677	(20.6)
60歳代	211	33	(16.5)	60～64歳	1,940	338	(17.4)
70歳以上	166	23	(15.4)	65歳以上	5,299	616	(11.6)
女性	1,080	293	(29.5)	女性	19,974	5,664	(28.4)
20歳代	107	36	(35.3)	20～29歳	2,810	1,064	(37.9)
30歳代	161	46	(29.9)	30～39歳	3,470	1,258	(36.3)
40歳代	209	65	(33.2)	40～49歳	3,937	1,357	(34.5)
50歳代	210	60	(31.0)	50～59歳	3,267	886	(27.1)
60歳代	241	59	(26.7)	60～64歳	1,875	380	(20.3)
70歳以上	152	27	(21.1)	65歳以上	4,614	719	(15.6)
計	2,017	472	(25.1)	計	40,413	10,282	(25.4)

内閣府調査(平成 23 年度)と日本財団調査の性・年代別自殺念慮の比較

3) 原因

自殺念慮を抱いた人の 66.0%が2つ以上の原因を抱えていた。

自殺念慮を抱いた原因を質問したところ(選択肢から最大3つを選択する形式)、男性では「勤務問題(転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等)」(44.0%)、「経済生活問題(倒産、事業不振、負債、失業等)」(40.0%)、「健康問題(自分の病気の悩み、身体の悩み等)」(39.6%)、「家庭問題(家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病等)」(37.5%)、女性では「家庭問題(家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病等)」(55.4%)、「健康問題(自分の病気の悩み、身体の悩み等)」(37.6%)、「学校問題(いじめ、学業不振、教師との人間関係等)」(29.7%)、「男女問題(失恋、結婚をめぐる悩み等)」(28.2%)の順で多かった。

原因として最も多く挙げられた女性の「家庭問題」および男性の「勤務問題」と、他の原因の組み合わせを調べたところ、女性は(1位)「家庭問題」×(2位)「健康問題」×(3位)「経済生活問題」の組み合わせの割合が最も高く、男性では(1位)「勤務問題」×(2位)「経済生活問題」×(3位)「健康問題」の組み合わせの割合が最も高かった。

	女性			男性		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位
1	家庭問題	健康問題	経済生活問題	勤務問題	経済生活問題	健康問題
2	家庭問題	健康問題	-	勤務問題	健康問題	-
3	家庭問題	経済生活問題	健康問題	勤務問題	家庭問題	-
4	家庭問題	学校問題	-	勤務問題	経済生活問題	-
5	家庭問題	経済生活問題	-	勤務問題	健康問題	家庭問題
6	家庭問題	男女問題	-	勤務問題	男女問題	-
7	家庭問題	健康問題	男女問題	勤務問題	経済生活問題	家庭問題
8	家庭問題	健康問題	勤務問題	勤務問題	健康問題	経済生活問題
9	家庭問題	健康問題	学校問題	勤務問題	家庭問題	健康問題
10	家庭問題	経済生活問題	男女問題	勤務問題	男女問題	学校問題

図3:性別の自殺念慮の原因第1位と他原因の組み合わせ(上位10個)

過去1年以内に自殺念慮を抱いた人に絞った場合、男性では「経済生活問題」(55.6%)、「健康問題」(54.1%)、「勤務問題」(52.3%)の順で高く、女性では「家庭問題」(63.0%)、「健康問題」(58.8%)の割合が高くなっている。(補足資料①-3:性・年代別の自殺念慮の原因)

また、自殺念慮を抱いた原因に「その他」として多く挙げられた回答例として、「家族(配偶者・子ども等)の死」、「将来・進路不安」、「生きる意味・自分の存在意義が見出せない」、「虚無感」、「友人関係の不和」等があった。

②. 自殺未遂

1) 人数

「あなたはこれまでに自殺未遂をしたことがありますか」という質問に対して、6.8%の人があると回答した。自殺念慮と同様に、女性(8.0%)の方が男性(5.6%)に比べて自殺未遂経験者の割合が統計的に高かった。年代別でも、若年層ほど自殺未遂の経験がある傾向がある。(補足資料②-1:性・年代別の自殺未遂経験)

2) 時期

自殺未遂経験がある人のうち、過去1年以内(「いま現在」または「1年以内」)に自殺未遂を経験したと答えた人は 8.3%(回答者全体の 0.6%)で、そのうち、現在も「本気で自殺したいと考えている」人は 41.4%(回答者全体の 0.2%)であった。過去1年以内に自殺未遂を経験した割合は、男性(9.7%)の方が女性(7.3%)よりも高くなっている。なお、2.2%(回答者全体の 0.1%)が直近で自殺未遂を経験した時期として、「いま現在」という選択肢を選んでいる。(補足資料②-2:性・年代別の自殺未遂経験の時期)

全国の人口に上記結果を当てはめると、日本では推計 53 万 5,000 人の人が過去1年以内に自殺未遂を経験していることになる※。男性は 26 万 4,000 人、女性は 27 万 1,000 人となり、年代別で見ると 20 代の自殺未遂経験者は 65 歳以上の自殺未遂経験者数の約4～6倍である。

年代別の自殺未遂経験者推計(過去1年以内)	
20代	15万1,000～23万4,000人
30代	12万8,000～20万4,000人
40代	7万2,000～13万2,000人
50代	2万1,000～5万7,000人
60～64歳	2,000～1万8,000人
65歳以上	4,000～4万1,000人

図4:年代別の自殺未遂経験者(過去1年以内)の推計

※推計値は、国勢調査の性・年代別人口に、本調査の自殺未遂率を掛け合わせることで算出した[3]。本調査は約4万人(標本)の回答から、全国(母集団)の傾向を推定するものであるが、標本と母集団の間に生じる誤差(標本誤差)を勘案すると、全国における自殺未遂経験者の総人数は 45 万 6,000 人～60 万 7,000 人の推計となる。

3) 回数

過去1年以内に自殺未遂を経験した人の自殺未遂経験回数を見ると、女性の約半数(49.0%)が4回以上、男性の37.1%が4回以上自殺未遂を繰り返している。

4) 原因

過去1年以内に自殺未遂を経験した人の多く(82.6%)が2つ以上の原因を抱えている。これは、自殺念慮を抱いた人の場合(66.0%)に比べて高くなっている。

過去1年以内に自殺未遂を経験した人に原因を質問したところ(選択肢から最大3つまで選択する形式)、男性では「健康問題(自分の病気の悩み、身体の悩み等)」(60.2%)、「家庭問題(家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病等)」(56.3%)、「経済生活問題(倒産、事業不振、負債、失業等)」(55.9%)、「勤務問題(転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等)」(49.5%)、女性では「健康問題(自分の病気の悩み、身体の悩み等)」(71.2%)、「家庭問題(家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病等)」(64.7%)、「経済生活問題(倒産、事業不振、負債、失業等)」(37.1%)、「男女問題(失恋、結婚をめぐる悩み等)」(31.0%)の順で多く、男女とも1位は「健康問題」、2位は「家庭問題」となっている。
(補足資料②-3:性・年代別の自殺未遂の原因)

過去1年以内の自殺未遂の原因として最も多く挙げられた「健康問題」と他の原因との組み合わせを調べたところ、女性は(1位)「健康問題」×(2位)「家庭問題」×(3位)「経済生活問題」の組み合わせが多く、男性では(1位)「健康問題」×(2位)「経済生活問題」×(3位)「勤務問題」の組み合わせが多かった。

	女性			男性		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位
1	健康問題	家庭問題	経済生活問題	健康問題	経済生活問題	勤務問題
2	健康問題	経済生活問題	家庭問題	健康問題	家庭問題	勤務問題
3	健康問題	家庭問題	-	健康問題	経済生活問題	家庭問題
4	健康問題	家庭問題	勤務問題	健康問題	家庭問題	-
5	健康問題	勤務問題	男女問題	健康問題	勤務問題	家庭問題
6	健康問題	男女問題	-	健康問題	勤務問題	学校問題
7	健康問題	学校問題	-	健康問題	男女問題	経済生活問題
8	健康問題	経済生活問題	学校問題	健康問題	勤務問題	男女問題
9	健康問題	勤務問題	-	健康問題	家庭問題	経済生活問題
10	健康問題	その他	家庭問題	健康問題	その他	-

図5:性別の自殺未遂の原因第1位と他原因の組み合わせ(上位10個)

回答者数が少ないため正確性は低いが、性別を「その他」と回答した人(23 件)のうち、自殺念慮がある人が 34.8%、自殺未遂経験がある人が 13.0%と通常よりも高くなっていた。

消防庁によると 2014 年の自損行為による救急自動車の出動件数は6万 136 件、搬送された人数は4万 742 件であった[5]。本調査の推計値と合わせて数字を読み解くためには、「自損行為」の定義等、様々な点を考慮する必要があるが、自殺未遂により救急自動車の出動を受け、搬送される者は全国約 53.5 万人のうち、ごく一部であることが推察できる。

考察

本調査の結果では、自殺念慮を抱える人の比率が最も高いのは 20 代であった。次いで 30 代、40 代と、年代が上がるほど自殺念慮を抱える人の比率は下がっている。また自殺未遂を経験している人の比率も、やはり 20 代が最も高く、年代が上がるほどその比率が下がっていく傾向が見られた。(内閣府が平成 23 年度に実施した『自殺対策に関する意識調査』でも、似たような結果になっている。)

その一方で、実際に自殺で亡くなった人の比率(自殺率=人口 10 万人あたりの自殺者数)を見ると、平成 27 年において最も高い年代は 50 代、次いで 80 代、70 代、40 代、60 代、30 代、そして 20 代となっている。10 代を除けば、つまり 20 代の自殺率が最も低いのである。

こうした自殺の現状と、本調査の結果との「ギャップ」については、あくまでも推測ではあるが、次のように考えることができる。

つまり、「漠然とした生きづらさを抱える人」や「生きる意欲を削がれている人」の比率は若年世代の方が高いが、しかし、例えば「借金」や「生活苦」、「病苦」や「孤立」等の、人を実際に自殺に追い込みかねない要因を複合的に抱える人の比率は中高年以降の方が高い。そのため、「もう生きられない」「死ぬしかない」という状況に実際に追い込まれて、自殺で亡くなる人の比率も中高年以降の方が高い、ということだ。

一般的に自殺のリスクは、「生きることの促進要因(生きることを後押しするもの)」と「生きることの阻害要因(生きることを困難にさせるもの)」のバランスが崩れたときに高くなる。若年世代の場合、促進要因が少ないという意味で「生きづらさ」を抱えた人が多く、ただ阻害要因も少ないために実際には自殺にまでは追い込まれにくい。他方、中高年以降の世代は、促進要因は多いものの、それを上回る阻害要因を抱えやすいために、実際に自殺で亡くなる人の比率が高くなっている可能性がある。

※[5]・・・「4 参考文献」参照のこと

③. 身近な人の自殺

1) 人数・回答者との関係

31.7%の人が周り的人を自殺で亡くした経験があると回答した。そのうち、身近な人((家族・親族(同居(1.8%)・別居(9.5%))、友人(10.1%)、恋人(0.3%))を自殺で亡くしている人は5人に1人(20.4%)存在することが明らかになった。また、「その他」(4.7%)には、同級生や近所の人という回答が多かった。

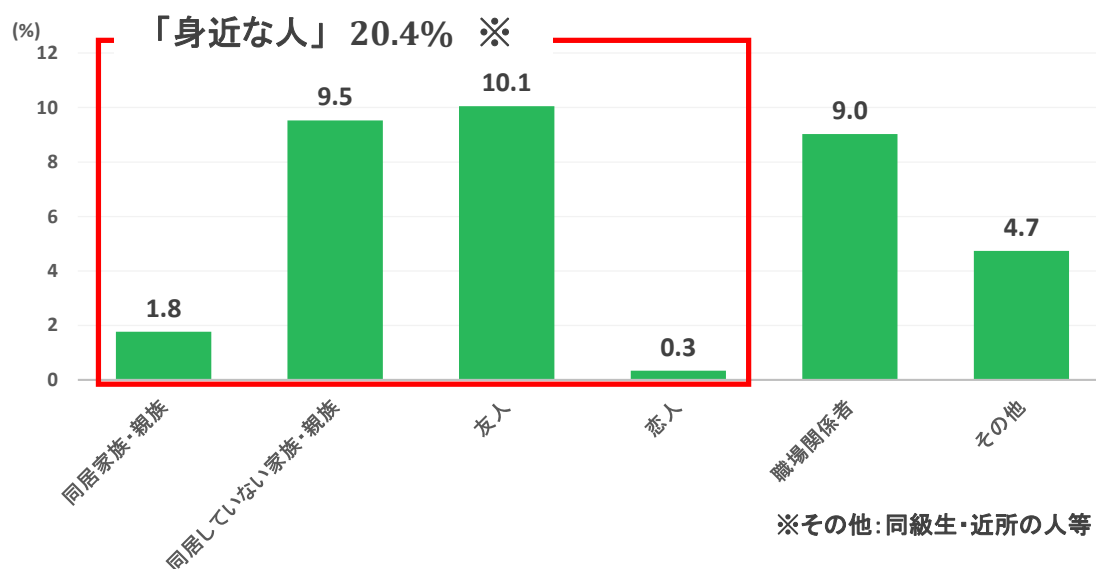


図6: 自殺で亡くした周りの人(回答者との関係別)

※複数回答の重複を勘案: 「同居家族・親族」「同居していない家族・親族」「友人」「恋人」のうち、1つでも回答した人を回答数問わず「1」とカウントし、全回答者に対する割合を求めたものである。

2) 自殺念慮・自殺未遂の経験

自殺で身近な人を亡くした遺族は自殺のリスクが高いということが言われている[6]。本調査でも、身近な人(家族・親族、友人、恋人)を亡くした人の33.9%が自殺念慮を抱いたことがあり、全回答者における自殺念慮の割合(25.4%)に比べると高くなっている。また、身近な人を亡くした人の10.8%が自殺未遂を経験しており、こちらも全回答者における自殺未遂経験の割合(7.0%)に比べると高くなっている。特に、恋人を自殺で亡くした人(自殺念慮 59.4%、自殺未遂経験 38.6%)、同居している家族または親族を自殺で亡くした人(自殺念慮 40.2%、自殺未遂経験 16.1%)は自殺念慮や自殺未遂を経験する割合が高かった。

セクション2: 自殺念慮・自殺未遂のリスク

セクション2では、本調査より見えてきた自殺念慮や自殺未遂を経験する割合が高い人の特徴、自殺のリスクを高める危機要因、自殺のリスクを抑える抑制要因について分析する。

④. 自殺念慮・自殺未遂を経験する割合が高い人の特徴

セクション1にて、自殺念慮や自殺未遂を経験する割合が高い人の傾向として、若年層、女性、身近な人を自殺で亡くした人が挙げられた。

さらに、過去1年以内に自殺未遂経験がある人となない人を比較したところ(数値は調整済みのオッズ比)、失業した人(1.75 倍)、配偶者と死別した人(1.47 倍)、配偶者と離別した人(1.28 倍)、恋人がいる人(1.20 倍)、家族と同居している人(1.14 倍)が自殺未遂経験の割合が高いことが明らかになった。(補足資料④-1:「自殺未遂経験あり(1年以内)」と「自殺未遂経験なし」との要因・属性別自殺リスクの比較)

その他、自殺念慮や自殺未遂を経験する割合が高い人は、以下のような特徴を持つ傾向があった。

1) 「他者は頼れず、人間同士は理解・共感できない」という考え方

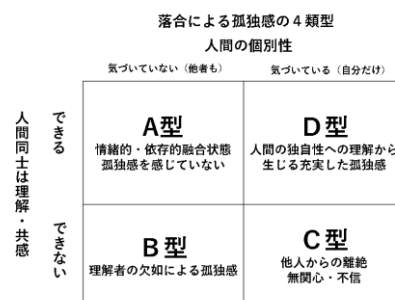
落合による「孤独感の類型判別尺度(LSO)」[7,8]を使用し、本調査のQ6,7にて、回答者の孤独感の類型を判定している。

落合によれば、人間の孤独感を「人間同士の理解・共感に対する考え方」と「自己(人間)の個性性への自覚」の2要因から右図のとおり4タイプに分類できるとしている。A型は「人間同士は理解・共感しあえるものだと思っており、自己の個性性に気づいていない」、つまり、孤独感を感じていないタイプである。

B型は「人間同士は理解・共感しあえないものだと思い、かつ

自己の個性性に気づいていない」タイプで、人間は独自性を持った存在であると気づいておらず、理解者がいないため孤独を感じている傾向がある。C型は「人間同士は理解・共感しあえないものだと思い、かつ自己の個性性に気づいている」タイプで、自分と同一の人間はおらず、人間は本来ひとりぼっちで、理解者を得ることは不可能だと考えている。D型は、「人間同士は理解・共感しあえるものだと思い、かつ自己の個性性に気づいている」タイプで、人間はひとりひとりが独立した存在であり、そういう人間同士だからこそ理解しあえるという価値観を持っている[7,8]。

本調査の結果、孤独感がC型の人が最も自殺念慮を抱いていることが分かった。



※[7][8]・・・「4 参考文献」参照のこと

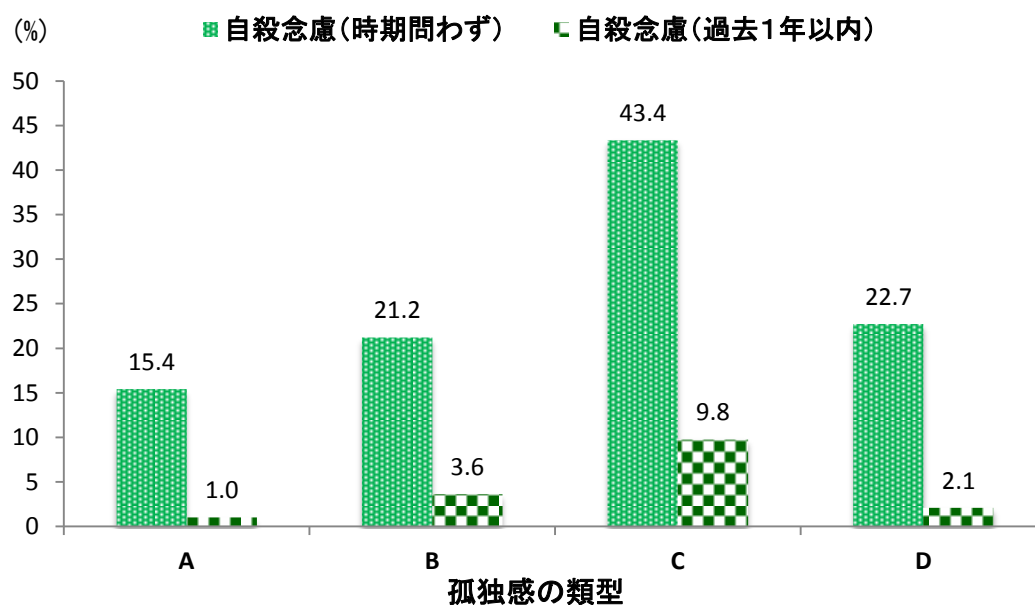


図7: 孤独感類型別の自殺念慮

2) 死に対する恐怖感が低く、生を全うさせる意志が希薄

自殺念慮を抱いた人の死生観の特徴として、死に対する恐怖感が低く(31.1%)、生を全うさせる意志が弱い(54.9%)傾向にある。なお、死生観の測定には、「死に対する態度尺度」の質問項目を用いた[9]。

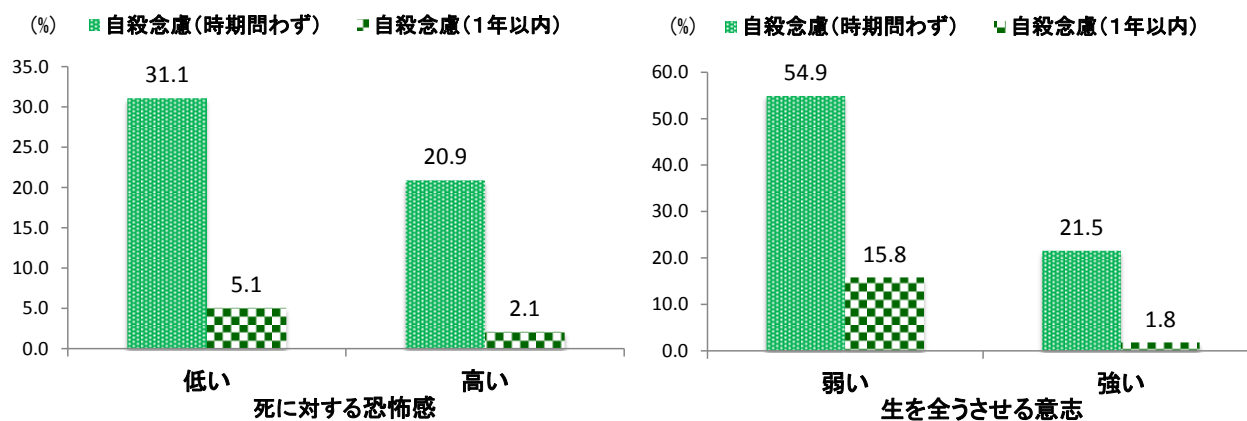


図8: 自殺念慮者の「死に対する恐怖感」と「生を全うさせる意志」

※[9]・・・「4 参考文献」参照のこと

3) 理想と現実の幸福感のギャップが大きい

理想と現実の幸福感の点数をそれぞれ 10 点満点で回答してもらったところ、理想の幸福感は自殺未遂経験の有無に関わらず6～7点程度であった。しかし、現在の幸福感に関しては、自殺未遂経験者の方が未経験者よりも統計的にも有意に低く、理想と現実のギャップが大きくなっていった。

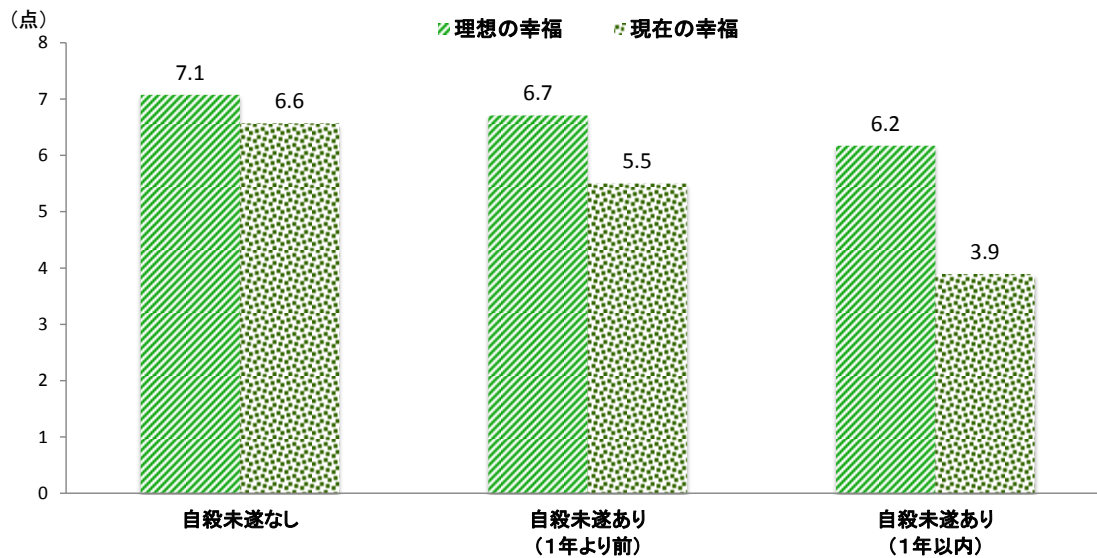
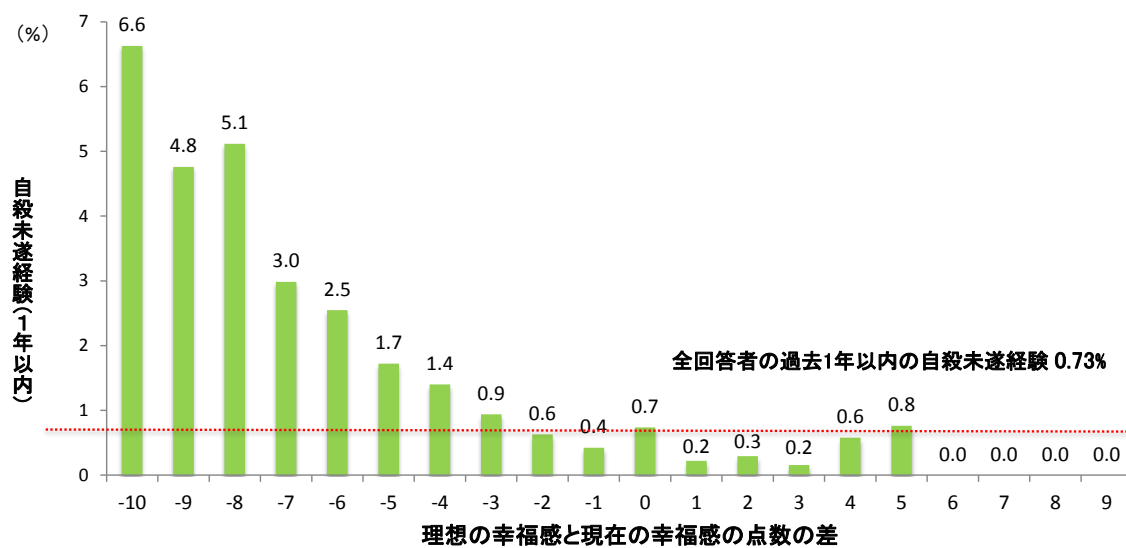


図9: 自殺未遂経験と理想・現在の幸福感



(左)現在の幸福感が理想よりも低い ← → 現在の幸福感が理想よりも高い(右)

図 10: 自殺未遂経験と理想・現在の幸福感の差

⑤. 自殺未遂経験のある若年層(20～39 歳)の特徴

セクション1で示されたように、若年層は他の年代に比べて自殺念慮(全年代 25.4%に対して 34.5%)や自殺未遂(過去1年以内の場合、全年代 0.6%に対して 1.3%)の割合が高い。そこで本項では、過去1年以内に自殺未遂経験があった若年層の特徴を提示する。

1) 就業・雇用形態別の特徴

若年層を就業状況別に見ると、学生で仕事もしている人の 4.1%、在職中だが休職している人の 2.6%、無職で仕事をしたいと思っていない人の 2.3%、無職で休職中の人の 2.2%が過去1年以内に自殺未遂の経験があった。

雇用形態別に見ると※、直近1年に自殺未遂を経験した人の割合は、会社役員(会長・社長等も含む、4.8%)、内職(2.7%)、自営業の手伝い(家族従事者、2.5%)の順に高かった。(補足資料⑤-1:20～39歳の就業状況・雇用形態別の自殺未遂経験者の割合)

※現在無職の人を含む(前職における雇用形態を回答している)。在職者に絞った場合、人数が少なく統計的な順位はつけられないが、過去1年以内に自殺未遂を経験した人の割合は、会社役員(2.8%)、パート・アルバイト従事者(1.7%)、自営業主(雇い人は0人、1.1%)、派遣社員・契約社員・嘱託(1.1%)であった。

2) 直面するライフイベント

若年層における過去1年以内の自殺未遂経験者は、他年代の未遂経験者よりも、進路に関する悩み、精神疾患、家族等からの虐待、家族関係の不和、職場や学校での人間関係の不和に直面していた。また、若年層の性別に自殺未遂経験者と比較すると、男性は進路の悩み(現在)、家族等からの虐待(現在)、職場や学校での人間関係の不和(現在)を抱えている傾向があり、女性はうつ病以外の精神疾患(過去)、家族関係の不和(過去)を経験している傾向があった。(補足資料⑤-2:自殺未遂経験者(過去1年以内)の直面するライフイベント:20・30代と他年代の比較)

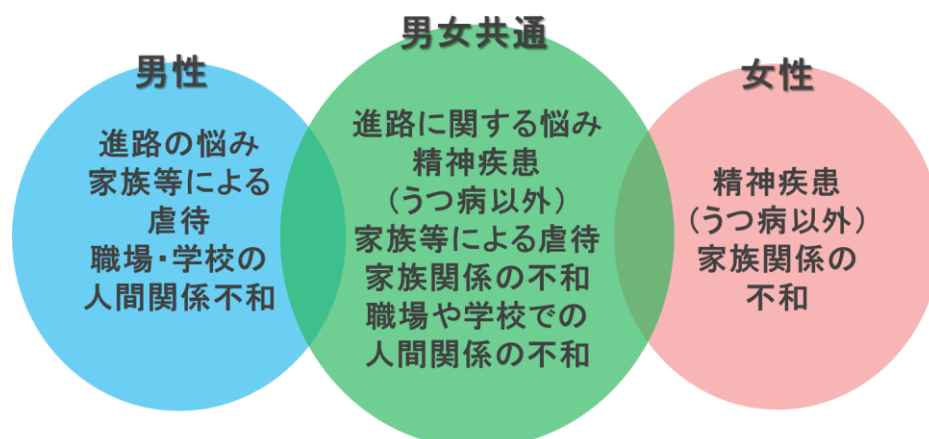
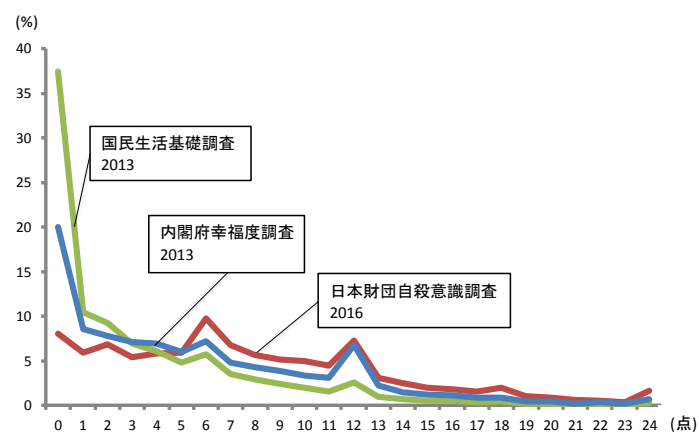


図 11: 自殺未遂経験(過去1年以内)のある若年層が直面していたライフイベント(20・30代と他年代で比較)

本調査では、こころの健康度を K6 という尺度で測定している。K6 は「神経過敏に感じましたか」「絶望的だと感じましたか」等の 6 つの設問に対して、回答者が過去 30 日間に感じた頻度を 5 つの選択肢(それぞれ 0～4 点に配点されている)から選択する。K6 の合計点は 0～24 点の範囲となり、9 点以上の場合にはこころの健康を崩しており、13 点以上であると深刻な精神的な問題を抱えている可能性がある[10]。

他の調査と比較すると、本調査では全般的に K6 スコアが高かった。(付録⑤-3: K6 スコアの比較(日本財団調査 2016、内閣府幸福度調査 2013、国民生活基礎調査 2013、内閣府自殺意識調査 2011))これは、他の調査において 0 点の回答者の構成比が大きな割合を占めていることの影響が考えられる(例えば、国民生活基礎調査における 0 点の回答者は 37.5% と高い)。インターネット調査であるため本調査では若年層、単身者をより多く把握できたことや、サンプリングや設問の順番等の違いによって回答に差が出た可能性があるため、解釈には注意が必要である。K6 スコアの回答傾向は、下図の通り、他の調査と大きな差はなかった。



国民生活基礎調査(2013)、内閣府幸福度調査(2013)、本調査における K6 スコア

若年層で自殺念慮や自殺未遂の経験がある人の K6 スコアは非常に高く、こころの健康度が低い状況がうかがえる。

	K6 スコア (平均)		
	20～29 歳	30～39 歳	20～39 歳
念慮あり	13.60	12.51	13.00
念慮なし	8.96	8.05	8.45
未遂経験あり	14.23	13.61	13.90
未遂経験なし	9.94	8.97	9.40

若年層における K6 スコア 平均値 (自殺念慮・未遂経験の有無別の比較)

※[10]・・・「4 参考文献」参照のこと

⑥. 自殺の危機要因(自殺リスクを高める要因)

本調査より自殺のリスクを高める危機要因と各要因間の関係性が明らかになった。

現在、下記の要因を経験していると自殺のリスクが高まる危険性がある。(数値は調整済みのオッズ比:過去1年以内の自殺未遂経験者と自殺未遂経験がない人との比較)

- 1) 家族等からの虐待(被虐待) 2.48 倍
- 2) 家族の死亡 1.60 倍
- 3) 職場や学校でのいじめ 1.59 倍
- 4) 生活苦 1.39 倍
- 5) 家庭内暴力 1.33 倍
- 6) アルコール依存 1.31 倍
- 7) 負債(多重債務等) 1.27 倍

また、**過去**に下記の要因を経験していると自殺のリスクが高まる危険性がある。

- 1) アルコール依存 1.96 倍
- 2) 薬物依存 1.68 倍
- 3) 被虐待 1.49 倍
- 4) 職場環境の変化 1.31 倍
- 5) 事業不振 1.27 倍

現在と過去の要因の組み合わせを見てみると、下記の5つが最も自殺のリスクを高める危険性がある。(※上記と同様に数値は、自殺未遂経験者(1年以内)と自殺未遂経験がない人との比較)

- 1) **被虐待(過去)** + **被虐待(現在)** + **家庭内暴力(現在)** =72.34 倍
- 2) **被虐待(過去)** + **生活苦(現在)** + **アルコール依存(現在)** =26.74 倍
- 3) **被虐待(過去)** + **被虐待(現在)** + **家族の死亡(現在)** =10.39 倍
- 4) **アルコール依存(過去)** + **アルコール依存(現在)** + **生活苦(現在)** =3.02 倍
- 5) **被虐待(過去)** + **被虐待(現在)** + **生活苦(現在)** =2.10 倍

⑦. 自殺の抑制要因(自殺リスクを抑える要因)

本調査の分析結果より、前項のような自殺の危機要因を抱えていても、「家族の中での自己有用感」が高い人、「社会的問題解決能力」が高い人、「共感力」が高い人は自殺未遂のリスクを抑えることができることがわかった。

1) 「家族の中で居場所がある、価値ある存在」という実感が強い(家族の中での「自己有用感」)

本調査では『栃木の子どもの自己有用感調査』における「自己有用感尺度」を使用して、回答者の「自己有用感」を測定した(該当箇所 Q16-1,17)[11]。ここでの「自己有用感」は「他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚」と定義している。この自己有用感と、自殺の危機要因(「生活苦」「虐待経験」)の有無、過去1年以内の自殺未遂経験の有無の関係を分析したところ、家族の中での自己有用感が高い人は、自殺を促すリスクのある「生活苦」や「虐待経験」があっても、自殺未遂のリスクが有意に低かった。つまり、家族の中で自分の存在を価値あるものとして受け止めることができる感覚は、自殺の危機要因を抑える働きがあるといえる。

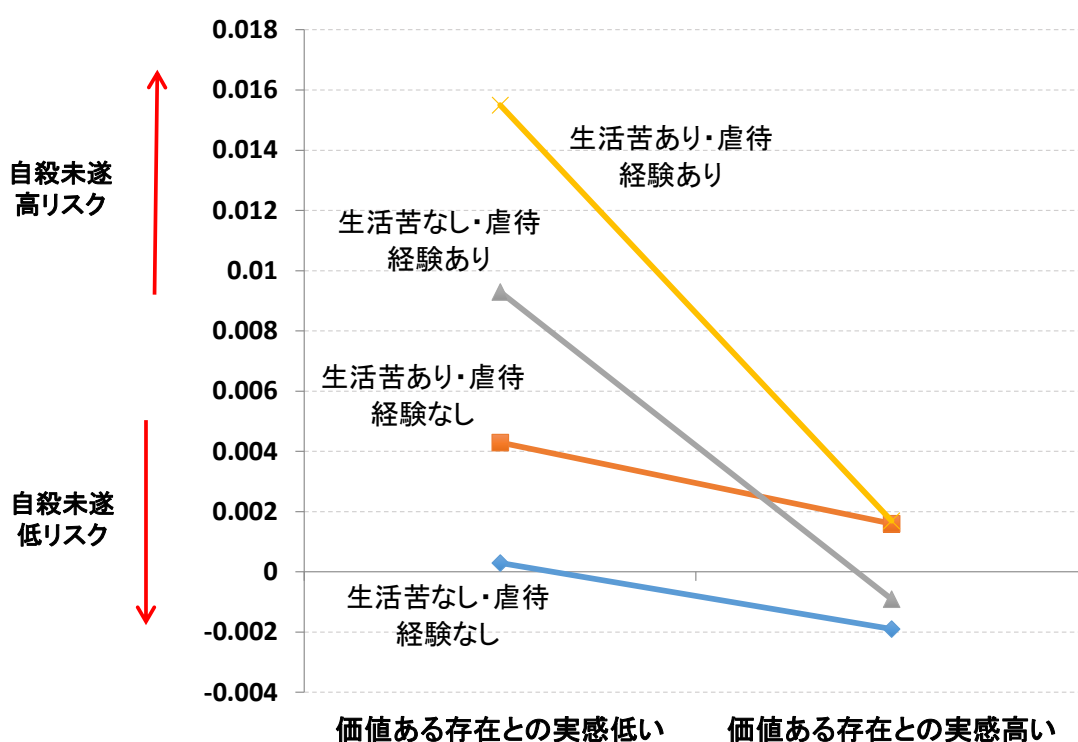


図 12:「生活苦」「虐待経験」の有無別、家族の中での自己有用感と自殺未遂経験(過去1年以内)

※[11]・・・「4 参考文献」参照のこと

2) 直面する問題を前向きに捉える「ポジティブな問題志向」が高い(「社会的問題解決力」が高い)

本調査では、回答者の「社会的問題解決力」を測定するために、「Social Problem Solving Inventory - Revised (SPSI-R)」という尺度を使用した(Q18,19)[12]。「社会的問題」とは私たちが日常で直面する様々な問題のことで、「社会的問題解決力」は問題に対する個人の考え方や感じ方(「問題志向」と問題を理解して解決する方法(「問題解決スタイル」)の2要因から測定される。「問題志向」は、「ポジティブな問題志向」と「ネガティブな問題志向」に大別される。「問題解決スタイル」は、①合理的、②衝動的/不注意型、③回避的の3分類がある。ここでは「問題志向」の中でも「ポジティブな問題志向」の有無に着目し、自殺の危機要因(「生活苦」「虐待経験」)の有無、過去1年以内における自殺未遂経験の有無との関係を調べた。すると、「生活苦」「虐待経験」の危機要因を抱えていても、「ポジティブな問題志向」が高い人は、自殺未遂のリスクが低かった。つまり、問題を前向きに捉えることができる態度は、自殺の危機要因を抑える働きがあることがわかった。

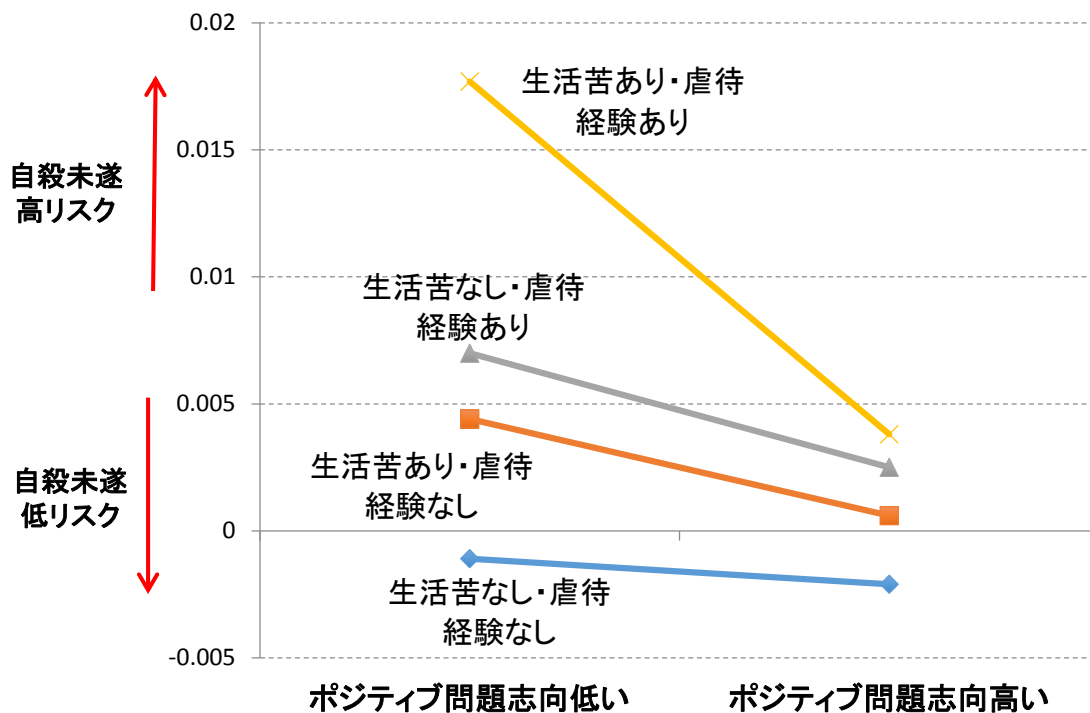


図 13:「生活苦」「虐待経験」の有無別、「ポジティブな問題志向」と自殺未遂経験(過去1年以内)

※[12]・・・「4 参考文献」参照のこと

3) 「人間同士は理解や共感ができる」と考えている(「共感力」がある)

「共感力」とは、「人間同士は理解や共感ができる」と思えることであり、「孤独感に関する類型判別尺度(LSO)」の回答から「共感力」の有無を分類した(Q6,7)[7,8]。「生活苦」「虐待経験」の危機要因を抱えている人の過去1年以内の自殺未遂経験を調べたところ、「共感力」が高い人は自殺未遂のリスクが低かった。

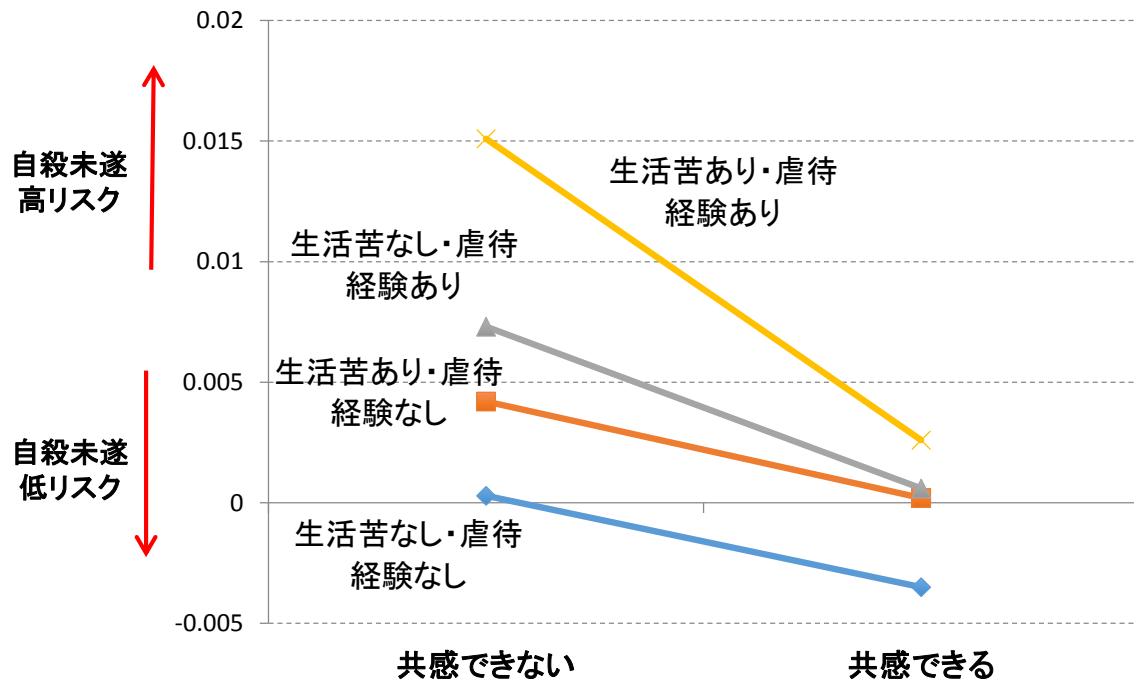


図 14:「生活苦」「虐待経験」の有無別、「共感力」と自殺未遂経験(過去1年以内)

考察

P.19 の考察でも触れたように、自殺のリスクは「生きることの促進要因」と「生きることの阻害要因」のバランスが崩れたときに高くなる。本調査でも、「被虐待の経験」と「生活苦」や「家庭内暴力」といった阻害要因を複合的に抱えている人の方が、自殺未遂経験をしている人の比率が高かった。また同じように「被虐待の経験」があって「生活苦」に陥っている人の中でも、「家族の中で自己有用感」を持っていたり「共感力」があったりする人は自殺未遂経験をしている人の比率が低く、逆にそうした促進要因を持てていない人は自殺未遂経験をしている人の比率が高かった。

自殺対策においては、相談事業等の問題解決策、つまり阻害要因を取り除くための取り組みに重きが置かれがちだが、本調査の結果を踏まえれば、「居場所活動」や「SOS の出し方教育」などの、促進要因を増やしていくための取り組みがあわせて重要となることが分かる。

⑧. 居住継続希望が多い地域は自殺リスクが低い

前項では自殺のリスクを抑える個人の持つ要因について分析したが、環境要因も自殺のリスクを抑える可能性があることが、地域と自殺念慮・自殺未遂経験の関連から見てきた。

いま住んでいる地域に住み続けたいと思う人が多い都道府県に住んでいる人は、自殺念慮や自殺未遂の経験が少ない傾向にあった。

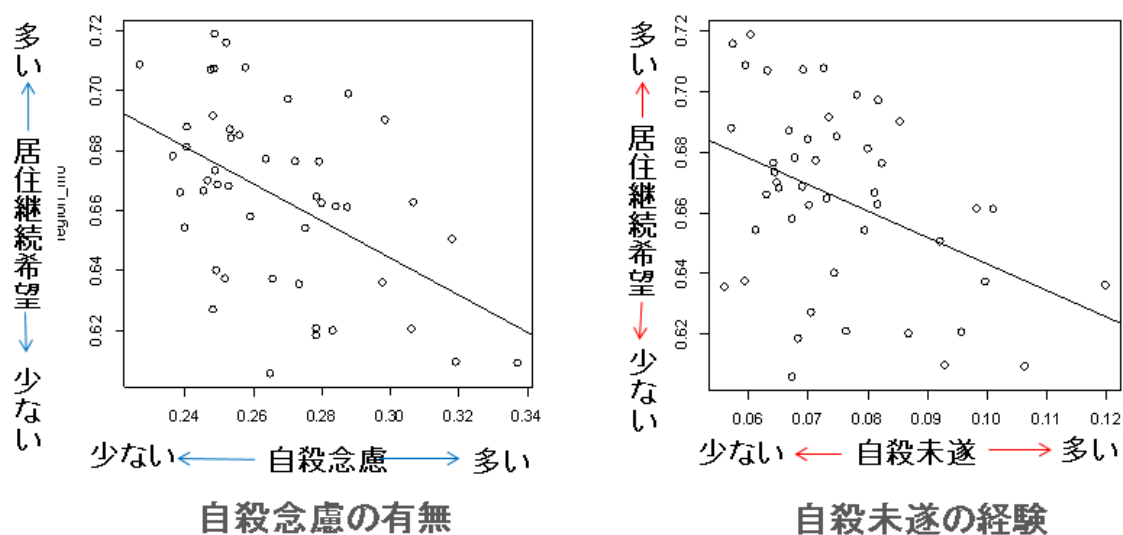


図 15: 都道府県別の居住継続希望と自殺念慮および自殺未遂の経験

※表のドットは 47 都道府県の平均値を表している。

セクション3: 自殺念慮・自殺未遂への対処方法

セクション3では、自殺念慮や自殺未遂を経験した際に、どのような行動を取ったか調査結果より見ていきたい。

⑨. 自殺念慮・自殺未遂を思いとどまった理由

本気で自殺を考えた際に思いとどまった理由としては、「我慢して」(28.9%)、「家族や恋人等が悲しむから」(28.2%)という2つの理由が多かった。一方で、自殺未遂を経験した人は、「試みたが死に切れなくて」(過去1年以内の人 40.4%、1年以上前の人 38.4%)という回答が最も多かった。

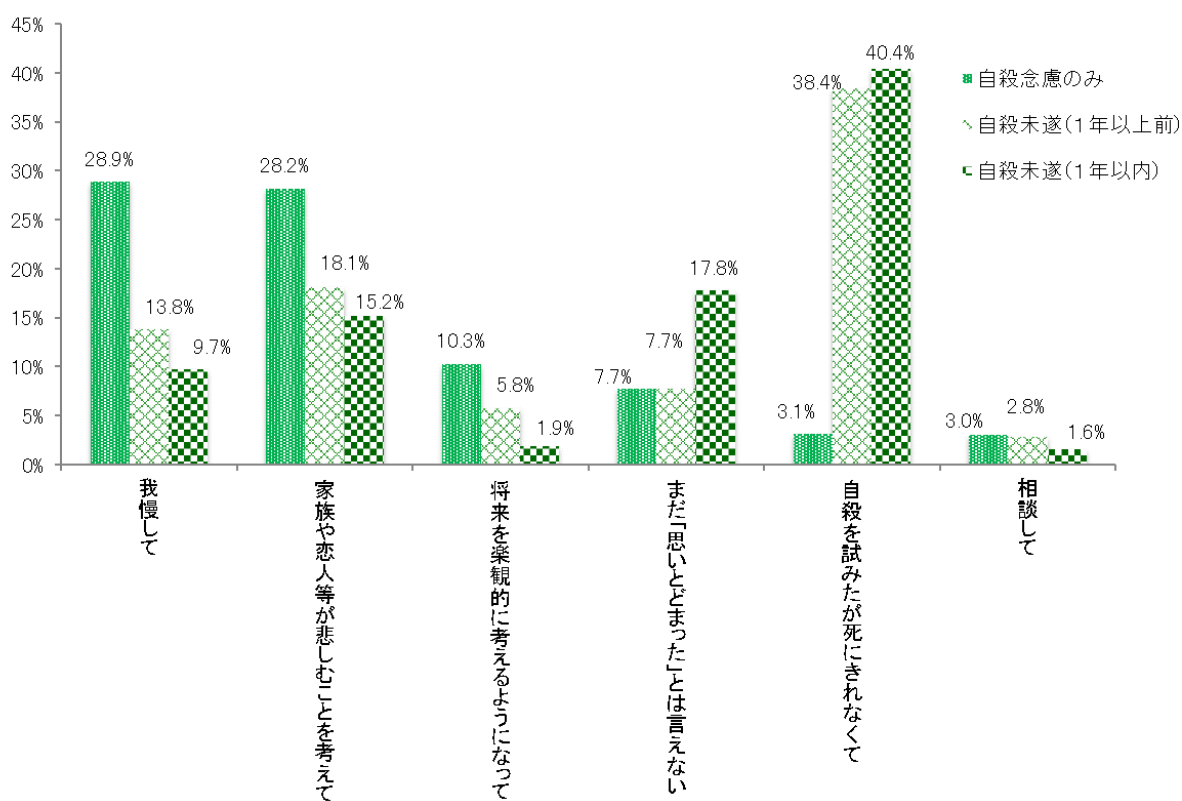


図 16: 自殺念慮や自殺未遂を思いとどまった理由

⑩. 相談について

前項より、自殺念慮及び自殺未遂を経験したときに、相談することによって乗り越えたケースが少ないことが分かった。

1) 相談の有無

自殺したいと思った際、または、自殺未遂を経験した際に、誰にも相談しなかったと答えた人は約4人に3人(73.8%)であった。そのうち、本気で自殺したいと考えた際に相談しなかった人は約4人に3人(73.9%)で、過去1年以内に自殺未遂を経験した際に、相談しなかった人は半数以上(51.1%)である。※この値は自殺念慮と自殺未遂の回答の重複を勘案していない。つまり、「本気で自殺したいと考え、自殺未遂をした人」は「本気で自殺したいと考えた際に相談しなかった人(73.9%)」、「自殺未遂を経験した際に相談しなかった人(51.1%)」の両方の値に含まれている。

2) 相談先

相談した人の相談先としては、自殺念慮を抱えた場合は両親・祖父母(7.8%)、医師・医療機関(5.1%)、配偶者(5.1%)、学校(時代)の友人(4.2%)、カウンセラー・相談員(3.8%)の順で多かった。

自殺未遂を経験した場合は、医師・医療機関(17.5%)が最も多く、配偶者(13.0%)、両親・祖父母(12.6%)、カウンセラー・相談員(10.9%)が挙げられた。(補足資料⑩-1:自殺念慮や自殺未遂を経験した際の相談状況)

3) 相談しなかった理由

一方、自殺したいと思った際、または、自殺未遂を経験した際に相談しなかった理由としては、「相談する必要がないので誰にも相談しない」(37.3%)が最も多かった(念慮の際:37.5%、未遂の際:30.7% ※回答の重複は勘案していない)。(補足資料⑩-2:相談しなかった理由)

相談先として、医師・医療機関を選択しなかった人に受診しなかった理由を聞いたところ、自殺念慮を抱えた際は「自力で問題に対処したかった」(23.2%)、「どこに行けばよいか、誰に診てもらえば良いかわからなかった」(14.2%)、「医師や医療機関を信用できなかった」(13.9%)の順で多かった。

自殺未遂を経験した際は、「医師や医療機関を信用できなかった」(21.1%)、「治療が、効果があるとは思わなかった」(15.8%)、「自力で問題に対処したかった」(14.9%)等が挙げられた。(補足資料⑩-3:医師・医療機関を受診しなかった理由)

平成20年度の内閣府調査においても、「(最近1年以内に自殺を考えた人に対して)そのように考えたとき、誰かに相談したことがありますか」という質問がある。内閣府調査(無回答を除く)と本調査と比較すると、「誰にも相談しない」という割合は、本調査(70.8%)の方が内閣府調査(60.4%)より統計的にも高くなっている。内閣府調査時から相談状況が改善されていない状況が伺える。なお、相談先等については、両調査で選択肢が大幅に異なるため比較は困難である。

4 参考文献

- [1] 平成 28 年度版 自殺対策白書.厚生労働省,2016.
<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/jisatsu/16/index.html>, (参照 2016-10-25).
- [2] 埴淵知,村中亮夫,安藤雅登.インターネット調査によるデータ収集の課題—不良回答、回答時間、および地理的特性に注目した分析—.E-journal GEO.2015, 10(1):81-98.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/ejgeo/10/1/10_81/_pdf, (参照 2016-11-04).
- [3] 平成 27 年国勢調査.総務省統計局,2015.<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/kekka.htm>, (参照 2016-10-25).
- [4] 自殺対策に関する意識調査.内閣府,2008,2011.
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000131386.html>, (参照 2016-10-25).
※内閣府が調査実施したが、2016 年度より管轄が厚生労働省に移転している。
- [5] 平成 27 年版 救急・救助の現況.総務省消防庁,2015.
http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_3.html, (参照 2016-10-27).
- [6] Preventing suicide: a global imperative. Geneva: World Health Organization; 2014.
http://www.who.int/mental_health/suicide-prevention/world_report_2014/en/, accessed 2016-10-21.
- [7] 落合良行.現代青年における孤独感構造. The Japanese Journal of Educational Psychology. 1974, 12(3):26-34.
- [8] 落合良行.孤独感の類型判別尺度(LSO)の作成.The Japanese Journal of Educational Psychology.1983, 31(4):332-336.
- [9] 丹下智香子,西田裕紀子,富田真紀子,安藤富士子,下方浩史.中高年者に適用可能な死に対する態度尺度(ATDS-A)の構成および信頼性・妥当性の検討.日本老年医学会雑誌.2013, 50(1):88-95.
- [10] Kessler RC, Green JG, Gruber MJ, et al. Screening for Serious Mental Illness in the General Population with the K6 screening scale: Results from the WHO World Mental Health (WMH) Survey Initiative. International journal of methods in psychiatric research. 2010;19(0 1):4-22. doi:10.1002/mpr.310.
- [11] 高めよう！自己有用感～栃木の子どもの現状と指導の在り方～.栃木県総合教育センター,2012.
http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/h24_jikoyuyokan/, (参照 2016-11-01).
- [12] 佐藤寛,高橋史,松尾雅,境泉洋,嶋田洋徳,陳峻雯,貝谷久宣,坂野雄二.Social Problem-Solving Inventory-Revised(SPSI-R)日本語版の作成と信頼性・妥当性の検討.行動療法研究,2006,32(1):15-30.

5 本調査結果のメディアでの使用・自殺に関する報道における注意点

本調査結果の使用を含め、自殺に関する報道を行うメディア関係者は下記を遵守していただきますようお願い申し上げます。

WHO『自殺予防 メディア関係者のための手引き(2000 年)』

出典:厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000133759.html>

自殺予防 メディア関係者のための手引き — メディア関係者のためのクイック・リファレンス —

- 努めて、社会に向けて自殺に関する啓発・教育を行う。
- 自殺を、センセーショナルに扱わない。当然の行為のように扱わない。
あるいは問題解決法の一つであるかのように扱わない。
- 自殺の報道を目立つところに掲載したり、過剰に、そして繰り返し報道しない。
- 自殺既遂や未遂に用いられた手段を詳しく伝えない。
- 自殺既遂や未遂の生じた場所について、詳しい情報を伝えない。
- 見出しのつけかたには慎重を期する。
- 写真や映像を用いることにはかなりの慎重を期する。
- 著名な人の自殺を伝えるときには特に注意をする。
- 自殺で遺された人に対して、十分な配慮をする。
- どこに支援を求めることができるのかということについて、情報を提供する。
- メディア関係者自身も、自殺に関する話題から影響を受けることを知る。

WHO「自殺予防 メディア関係者のための手引き」(2008 年改訂版日本語版)
訳 河西 千秋 (横浜市立大学医学部精神医学教室)

6 補足資料

2-1) 平成 23 年度(2011 年)内閣府調査の回答者内訳(実施時の住民基本台帳との比較)

		住民基本台帳2011			内閣府調査2011		差
		回答数	%	期待標本数	回答数	%	
男性	20～29歳	7,016,925	(14.0)	131	97	(10.4)	-3.6
	30～39歳	9,201,928	(18.3)	172	131	(14.0)	-4.3
	40～49歳	8,560,066	(17.0)	160	172	(18.4)	1.3
	50～59歳	7,981,195	(15.9)	149	160	(17.1)	1.2
	60～69歳	8,872,990	(17.7)	165	211	(22.5)	4.9
	70歳以上	8,603,293	(17.1)	160	166	(17.7)	0.6
計		50,236,397	(100.0)	937	937	(100.0)	-

		住民基本台帳2011			内閣府調査2011		差
		回答数	%	期待標本数	回答数	%	
女性	20～29歳	6,712,822	(12.5)	135	107	(9.9)	-2.6
	30～39歳	8,806,255	(16.4)	177	161	(14.9)	-1.5
	40～49歳	8,300,985	(15.4)	167	209	(19.4)	3.9
	50～59歳	7,970,698	(14.8)	160	210	(19.4)	4.6
	60～69歳	9,371,781	(17.4)	188	241	(22.3)	4.9
	70歳以上	12,574,893	(23.4)	253	152	(14.1)	-9.3
計		53,737,434	(100.0)	1,080	1,080	(100.0)	-

2-2)都道府県別の回答者内訳(2015 年国勢調査との比較)

	国勢調査2015			日本財団調査2016		差
	回答数	%	期待標本数	回答数	%	
北海道	4,488,700	(4.3)	1,754	1,731	(4.3)	-0.1
青森県	1,082,200	(1.0)	423	417	(1.0)	0.0
岩手県	1,058,600	(1.0)	414	400	(1.0)	0.0
宮城県	1,883,300	(1.8)	736	740	(1.8)	0.0
秋田県	862,400	(0.8)	337	324	(0.8)	0.0
山形県	929,900	(0.9)	363	347	(0.9)	0.0
福島県	1,592,600	(1.5)	622	598	(1.5)	-0.1
茨城県	2,371,900	(2.3)	927	927	(2.3)	0.0
栃木県	1,620,900	(1.6)	633	629	(1.6)	0.0
群馬県	1,607,900	(1.6)	628	620	(1.5)	0.0
埼玉県	5,851,900	(5.7)	2,286	2,362	(5.8)	0.2
千葉県	5,111,100	(4.9)	1,997	2,014	(5.0)	0.0
東京都	11,216,900	(10.8)	4,382	4,450	(11.0)	0.2
神奈川県	7,415,200	(7.2)	2,897	2,957	(7.3)	0.1
新潟県	1,910,100	(1.8)	746	720	(1.8)	-0.1
富山県	880,400	(0.9)	344	334	(0.8)	0.0
石川県	931,500	(0.9)	364	363	(0.9)	0.0
福井県	635,800	(0.6)	248	241	(0.6)	0.0
山梨県	681,100	(0.7)	266	261	(0.6)	0.0
長野県	1,709,800	(1.7)	668	645	(1.6)	-0.1
岐阜県	1,644,700	(1.6)	643	638	(1.6)	0.0
静岡県	3,021,400	(2.9)	1,180	1,166	(2.9)	0.0
愛知県	5,954,700	(5.8)	2,326	2,378	(5.9)	0.1
三重県	1,469,400	(1.4)	574	572	(1.4)	0.0
滋賀県	1,119,100	(1.1)	437	441	(1.1)	0.0
京都府	2,109,900	(2.0)	824	833	(2.1)	0.0
大阪府	7,160,200	(6.9)	2,797	2,854	(7.1)	0.1
兵庫県	4,458,600	(4.3)	1,742	1,753	(4.3)	0.0
奈良県	1,115,700	(1.1)	436	437	(1.1)	0.0
和歌山県	798,500	(0.8)	312	300	(0.7)	0.0
鳥取県	465,500	(0.4)	182	175	(0.4)	0.0
島根県	568,400	(0.5)	222	212	(0.5)	0.0
岡山県	1,545,600	(1.5)	604	595	(1.5)	0.0
広島県	2,311,800	(2.2)	903	883	(2.2)	-0.1
山口県	1,159,900	(1.1)	453	435	(1.1)	0.0
徳島県	618,000	(0.6)	241	235	(0.6)	0.0
香川県	788,100	(0.8)	308	303	(0.7)	0.0
愛媛県	1,128,300	(1.1)	441	432	(1.1)	0.0
高知県	603,900	(0.6)	236	229	(0.6)	0.0
福岡県	4,056,400	(3.9)	1,585	1,606	(4.0)	0.1
佐賀県	670,900	(0.6)	262	256	(0.6)	0.0
長崎県	1,121,100	(1.1)	438	424	(1.0)	0.0
熊本県	1,451,000	(1.4)	567	546	(1.4)	-0.1
大分県	954,200	(0.9)	373	363	(0.9)	0.0
宮崎県	885,500	(0.9)	346	339	(0.8)	0.0
鹿児島県	1,330,500	(1.3)	520	504	(1.2)	0.0
沖縄県	1,094,300	(1.1)	428	425	(1.1)	0.0
計	103,447,000	(100.0)	40,413	40,413	(100.0)	-

①-1) 性・年代別の自殺念慮

	回収数	自殺念慮あり(無回答除く)		下限	上限
		回答者数	%		
男性	20,439	4,618	(22.6)	22.0	~ 23.2
20~29歳	2,667	849	(31.9)	30.1	~ 33.6
30~39歳	3,376	1,079	(32.0)	30.4	~ 33.5
40~49歳	3,871	1,058	(27.3)	25.9	~ 28.7
50~59歳	3,287	677	(20.6)	19.2	~ 22.0
60~64歳	1,940	338	(17.4)	15.7	~ 19.1
65歳以上	5,299	616	(11.6)	10.8	~ 12.5
女性	19,974	5,664	(28.4)	27.7	~ 29.0
20~29歳	2,810	1,064	(37.9)	36.1	~ 39.7
30~39歳	3,470	1,258	(36.3)	34.7	~ 37.9
40~49歳	3,937	1,357	(34.5)	33.0	~ 36.0
50~59歳	3,267	886	(27.1)	25.6	~ 28.6
60~64歳	1,875	380	(20.3)	18.4	~ 22.1
65歳以上	4,614	719	(15.6)	14.5	~ 16.6
計	40,413	10,282	(25.4)	25.0	~ 25.9

①-2) 性・年代別の自殺念慮の時期

	自殺念慮の時期	20代		30代		40代		50代		60代		70代		計	
		回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%
男性	いま現在	89	(10.5)	101	(9.4)	86	(8.1)	56	(8.3)	7	(2.1)	11	(1.8)	350	(7.6)
	1年以内	106	(12.5)	106	(9.8)	61	(5.8)	43	(6.4)	8	(2.4)	12	(1.9)	337	(7.3)
	5年以内	246	(29.0)	217	(20.1)	181	(17.1)	95	(14.0)	43	(12.7)	37	(6.0)	818	(17.7)
	10年以内	267	(31.4)	270	(25.0)	247	(23.3)	122	(18.0)	52	(15.4)	69	(11.2)	1,027	(22.2)
	20年以内	133	(15.7)	280	(25.9)	239	(22.6)	134	(19.8)	69	(20.4)	103	(16.7)	958	(20.7)
	30年以内	9	(1.1)	94	(8.7)	140	(13.2)	65	(9.6)	30	(8.9)	73	(11.9)	410	(8.9)
	30年より前	0	(0.0)	11	(1.0)	103	(9.7)	163	(24.1)	129	(38.2)	311	(50.5)	717	(15.5)
	計	849	(100.0)	1,079	(100.0)	1,058	(100.0)	677	(100.0)	338	(100.0)	616	(100.0)	4,618	(100.0)
女性	いま現在	82	(7.7)	70	(5.6)	78	(5.7)	31	(3.5)	10	(2.6)	18	(2.5)	290	(5.1)
	1年以内	132	(12.4)	116	(9.2)	85	(6.2)	42	(4.7)	9	(2.3)	25	(3.4)	409	(7.2)
	5年以内	257	(24.1)	192	(15.2)	170	(12.5)	92	(10.3)	27	(7.0)	39	(5.4)	777	(13.7)
	10年以内	371	(34.8)	296	(23.5)	229	(16.8)	126	(14.1)	48	(12.4)	53	(7.3)	1,123	(19.8)
	20年以内	205	(19.2)	442	(35.1)	325	(23.9)	161	(18.1)	62	(16.1)	129	(17.8)	1,323	(23.4)
	30年以内	17	(1.6)	120	(9.5)	262	(19.3)	124	(13.9)	33	(8.5)	86	(11.8)	642	(11.3)
	30年より前	0	(0.0)	22	(1.7)	208	(15.3)	308	(34.6)	192	(49.7)	370	(51.0)	1,100	(19.4)
	計	1,066	(100.0)	1,261	(100.0)	1,361	(100.0)	891	(100.0)	386	(100.0)	726	(100.0)	5,664	(100.0)
総計	いま現在	171	(8.9)	171	(7.3)	164	(6.8)	87	(5.6)	16	(2.2)	30	(2.2)	639	(6.2)
	1年以内	239	(12.5)	222	(9.5)	146	(6.0)	85	(5.4)	17	(2.4)	37	(2.8)	746	(7.3)
	5年以内	502	(26.2)	409	(17.5)	351	(14.5)	187	(12.0)	70	(9.7)	76	(5.7)	1,595	(15.5)
	10年以内	638	(33.4)	567	(24.3)	476	(19.7)	248	(15.9)	100	(13.9)	121	(9.1)	2,150	(20.9)
	20年以内	337	(17.6)	721	(30.8)	564	(23.3)	296	(18.9)	131	(18.2)	231	(17.3)	2,281	(22.2)
	30年以内	26	(1.4)	214	(9.2)	403	(16.7)	189	(12.1)	63	(8.8)	158	(11.8)	1,053	(10.2)
	30年より前	0	(0.0)	33	(1.4)	312	(12.9)	471	(30.1)	321	(44.7)	681	(51.0)	1,818	(17.7)
	計	1,913	(100.0)	2,338	(100.0)	2,416	(100.0)	1,563	(100.0)	718	(100.0)	1,334	(100.0)	10,282	(100.0)

①-3)性・年代別の自殺念慮の原因

▼時期問わず－男性

自殺念慮の原因 (時期問わず) 男性		家庭問題		健康問題		経済生活問題		勤務問題		男女問題		学校問題		その他															
		無		有		無		有		無		有		無		有													
		回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%												
		回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%												
年代	20代	550	(64.8)	299	(35.2)	507	(59.7)	342	(40.3)	570	(67.1)	279	(32.9)	523	(61.6)	326	(38.4)	666	(78.5)	183	(21.5)	487	(57.3)	363	(42.7)	792	(93.3)	57	(6.7)
	30代	724	(67.1)	355	(32.9)	674	(62.4)	406	(37.6)	671	(62.1)	409	(37.9)	535	(49.6)	544	(50.4)	802	(74.3)	278	(25.7)	749	(69.4)	330	(30.6)	1,035	(95.9)	45	(4.1)
	40代	628	(59.4)	430	(40.6)	649	(61.4)	409	(38.6)	611	(57.7)	447	(42.3)	557	(52.7)	501	(47.3)	807	(76.3)	251	(23.7)	838	(79.2)	220	(20.8)	1,018	(96.2)	40	(3.8)
	50代	412	(60.8)	265	(39.2)	406	(59.9)	272	(40.1)	363	(53.6)	314	(46.4)	396	(58.4)	282	(41.6)	520	(76.7)	158	(23.3)	578	(85.3)	99	(14.7)	643	(95.0)	34	(5.0)
	60-64歳	203	(60.0)	135	(40.0)	196	(57.9)	142	(42.1)	191	(56.5)	147	(43.5)	193	(57.1)	145	(42.9)	263	(77.8)	75	(22.2)	295	(87.2)	43	(12.8)	320	(94.8)	18	(5.2)
	65歳以上	366	(59.5)	249	(40.5)	358	(58.1)	258	(41.9)	367	(59.6)	249	(40.4)	384	(62.3)	232	(37.7)	504	(81.8)	112	(18.2)	539	(87.6)	77	(12.4)	571	(92.7)	45	(7.3)
	計	2,884	(62.5)	1,734	(37.5)	2,789	(60.4)	1,829	(39.6)	2,773	(60.0)	1,845	(40.0)	2,588	(56.0)	2,030	(44.0)	3,562	(77.1)	1,056	(22.9)	3,485	(75.5)	1,133	(24.5)	4,379	(94.8)	239	(5.2)

▼時期問わず－女性

自殺念慮の原因 (時期問わず) 女性		家庭問題		健康問題				経済生活問題				勤務問題				男女問題				学校問題				その他					
		無		有		無		有		無		有		無		有		無		有		無		有					
		回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%				
年代	20代	546	(51.4)	517	(48.6)	636	(59.8)	428	(40.2)	833	(78.3)	230	(21.7)	762	(71.7)	301	(28.3)	755	(71.0)	309	(29.0)	598	(56.2)	465	(43.8)	1,005	(94.5)	59	(5.5)
	30代	604	(48.0)	654	(52.0)	807	(64.1)	452	(35.9)	961	(76.3)	298	(23.7)	933	(74.1)	326	(25.9)	851	(67.6)	408	(32.4)	798	(63.4)	460	(36.6)	1,186	(94.3)	72	(5.7)
	40代	647	(47.7)	710	(52.3)	858	(63.2)	499	(36.8)	965	(71.1)	393	(28.9)	1,057	(77.9)	301	(22.1)	963	(71.0)	394	(29.0)	925	(68.2)	432	(31.8)	1,280	(94.3)	77	(5.7)
	50代	320	(36.2)	565	(63.8)	564	(63.7)	322	(36.3)	618	(69.8)	268	(30.2)	733	(82.8)	153	(17.2)	660	(74.5)	226	(25.5)	687	(77.6)	198	(22.4)	814	(91.9)	72	(8.1)
	60-64歳	149	(39.1)	232	(60.9)	218	(57.2)	163	(42.8)	286	(75.1)	95	(24.9)	327	(85.9)	53	(14.1)	286	(75.1)	95	(24.9)	326	(85.6)	55	(14.4)	348	(91.4)	33	(8.6)
	65歳以上	262	(36.4)	457	(63.6)	451	(62.7)	268	(37.3)	509	(70.8)	210	(29.2)	621	(86.4)	97	(13.6)	551	(76.7)	168	(23.3)	648	(90.1)	71	(9.9)	642	(89.3)	77	(10.7)
計		2,528	(44.6)	3,136	(55.4)	3,533	(62.4)	2,131	(37.6)	4,171	(73.6)	1,493	(26.4)	4,433	(78.3)	1,231	(21.7)	4,065	(71.8)	1,599	(28.2)	3,982	(70.3)	1,682	(29.7)	5,274	(93.1)	390	(6.9)

▼1年以内－男性

自殺念慮の原因 (1年以内) 男性		家庭問題			健康問題			経済生活問題			勤務問題			男女問題			学校問題			その他			
		無	有	計	無	有	計	無	有	計	無	有	計	無	有	計	無	有	計	無	有	計	
年代	20代	%	(60.5)	(39.5)	(100.0)	(54.1)	(45.9)	(100.0)	(49.7)	(50.3)	(100.0)	(46.2)	(53.8)	(100.0)	(80.0)	(20.0)	(100.0)	(80.0)	(20.0)	(100.0)	(89.3)	(10.7)	(100.0)
	30代	%	(54.6)	(45.4)	(100.0)	(46.9)	(53.1)	(100.0)	(49.3)	(50.7)	(100.0)	(43.5)	(56.5)	(100.0)	(78.4)	(21.6)	(100.0)	(89.9)	(10.1)	(100.0)	(93.7)	(6.3)	(100.0)
	40代	%	(50.3)	(49.7)	(100.0)	(41.5)	(58.5)	(100.0)	(40.1)	(59.9)	(100.0)	(46.3)	(53.7)	(100.0)	(83.7)	(16.3)	(100.0)	(91.2)	(8.8)	(100.0)	(96.6)	(3.4)	(100.0)
	50代	%	(47.5)	(52.5)	(100.0)	(38.0)	(62.0)	(100.0)	(33.3)	(66.7)	(100.0)	(57.6)	(42.4)	(100.0)	(84.8)	(15.2)	(100.0)	(98.0)	(2.0)	(100.0)	(96.0)	(4.0)	(100.0)
	60～64歳	%	(42.9)	(57.1)	(100.0)	(28.6)	(71.4)	(100.0)	(21.4)	(78.6)	(100.0)	(60.0)	(40.0)	(100.0)	(80.0)	(20.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)
	65歳以上	%	(60.9)	(39.1)	(100.0)	(41.7)	(58.3)	(100.0)	(43.5)	(56.5)	(100.0)	(56.5)	(43.5)	(100.0)	(95.7)	(4.3)	(100.0)	(95.7)	(4.3)	(100.0)	(91.3)	(8.7)	(100.0)
合計		%	(54.3)	(45.7)	(100.0)	(45.9)	(54.1)	(100.0)	(44.4)	(55.6)	(100.0)	(47.7)	(52.3)	(100.0)	(81.5)	(18.5)	(100.0)	(88.9)	(11.1)	(100.0)	(93.4)	(6.6)	(100.0)

▼1年以内－女性

自殺念慮の原因 (1年以内) 女性		家庭問題			健康問題			経済生活問題			勤務問題			男女問題			学校問題			その他			
		無	有	計	無	有	計	無	有	計	無	有	計	無	有	計	無	有	計	無	有	計	
年代	20代	%	(39.5)	(60.5)	(100.0)	(44.7)	(55.3)	(100.0)	(63.6)	(36.4)	(100.0)	(62.6)	(37.4)	(100.0)	(67.3)	(32.7)	(100.0)	(83.3)	(16.7)	(100.0)	(94.4)	(5.6)	(100.0)
	30代	%	(34.4)	(65.6)	(100.0)	(46.5)	(53.5)	(100.0)	(53.2)	(46.8)	(100.0)	(70.8)	(29.2)	(100.0)	(71.9)	(28.1)	(100.0)	(90.3)	(9.7)	(100.0)	(91.9)	(8.1)	(100.0)
	40代	%	(39.9)	(60.1)	(100.0)	(39.3)	(60.7)	(100.0)	(44.2)	(55.8)	(100.0)	(73.6)	(26.4)	(100.0)	(82.8)	(17.2)	(100.0)	(86.5)	(13.5)	(100.0)	(92.0)	(8.0)	(100.0)
	50代	%	(29.7)	(70.3)	(100.0)	(32.9)	(67.1)	(100.0)	(38.4)	(61.6)	(100.0)	(77.0)	(23.0)	(100.0)	(90.4)	(9.6)	(100.0)	(90.5)	(9.5)	(100.0)	(86.3)	(13.7)	(100.0)
	60～64歳	%	(31.6)	(68.4)	(100.0)	(36.8)	(63.2)	(100.0)	(63.2)	(36.8)	(100.0)	(78.9)	(21.1)	(100.0)	(84.2)	(15.8)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(84.2)	(15.8)	(100.0)
	65歳以上	%	(39.5)	(60.5)	(100.0)	(25.0)	(75.0)	(100.0)	(46.5)	(53.5)	(100.0)	(95.3)	(4.7)	(100.0)	(93.0)	(7.0)	(100.0)	(95.3)	(4.7)	(100.0)	(86.0)	(14.0)	(100.0)
合計		%	(37.0)	(63.0)	(100.0)	(41.2)	(58.8)	(100.0)	(52.6)	(47.4)	(100.0)	(71.3)	(28.7)	(100.0)	(76.6)	(23.4)	(100.0)	(87.8)	(12.2)	(100.0)	(91.5)	(8.5)	(100.0)

②-1)性・年代別の自殺未遂経験

	自殺未遂経験	20代		30代		40代		50代		60代		70代		計	
		回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%
男性	ない	2,313	(86.7)	2,976	(88.2)	3,525	(91.1)	3,072	(93.5)	1,839	(94.8)	5,143	(97.1)	18,869	(92.3)
	1回だけ	138	(5.2)	138	(4.1)	133	(3.4)	87	(2.7)	50	(2.6)	81	(1.5)	628	(3.1)
	2～3回	72	(2.7)	108	(3.2)	81	(2.1)	56	(1.7)	21	(1.1)	26	(0.5)	363	(1.8)
	4回以上	43	(1.6)	57	(1.7)	38	(1.0)	14	(0.4)	3	(0.2)	7	(0.1)	162	(0.8)
	答えたくない	101	(3.8)	97	(2.9)	94	(2.4)	56	(1.7)	27	(1.4)	43	(0.8)	417	(2.0)
	計	2,667	(100.0)	3,376	(100.0)	3,871	(100.0)	3,287	(100.0)	1,940	(100.0)	5,299	(100.0)	20,439	(100.0)
女性	ない	2,324	(82.7)	2,937	(84.6)	3,419	(86.8)	2,991	(91.6)	1,757	(93.7)	4,395	(95.3)	17,823	(89.2)
	1回だけ	161	(5.7)	177	(5.1)	204	(5.2)	112	(3.4)	62	(3.3)	121	(2.6)	837	(4.2)
	2～3回	128	(4.6)	151	(4.4)	116	(2.9)	51	(1.6)	18	(1.0)	29	(0.6)	494	(2.5)
	4回以上	76	(2.7)	86	(2.5)	71	(1.8)	23	(0.7)	5	(0.3)	10	(0.2)	270	(1.4)
	答えたくない	120	(4.3)	119	(3.4)	128	(3.3)	89	(2.7)	34	(1.8)	60	(1.3)	550	(2.8)
	計	2,810	(100.0)	3,470	(100.0)	3,937	(100.0)	3,267	(100.0)	1,875	(100.0)	4,614	(100.0)	19,974	(100.0)
総計	ない	4,637	(84.7)	5,913	(86.4)	6,944	(88.9)	6,064	(92.5)	3,596	(94.2)	9,539	(96.2)	36,692	(90.8)
	1回だけ	300	(5.5)	316	(4.6)	338	(4.3)	199	(3.0)	112	(2.9)	202	(2.0)	1,465	(3.6)
	2～3回	200	(3.7)	259	(3.8)	197	(2.5)	108	(1.6)	39	(1.0)	54	(0.5)	857	(2.1)
	4回以上	119	(2.2)	143	(2.1)	108	(1.4)	38	(0.6)	8	(0.2)	17	(0.2)	432	(1.1)
	答えたくない	221	(4.0)	215	(3.1)	222	(2.8)	146	(2.2)	61	(1.6)	102	(1.0)	967	(2.4)
	計	5,477	(100.0)	6,846	(100.0)	7,808	(100.0)	6,554	(100.0)	3,815	(100.0)	9,913	(100.0)	40,413	(100.0)

②-2)性・年代別の自殺未遂経験の時期

	自殺未遂の時期	20代		30代		40代		50代		60代		70代		計	
		回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%
男性	いま現在	13	(5.1)	16	(5.3)	8	(3.2)	3	(1.8)	0	(0.6)	0	(0.0)	40	(3.5)
	1年以内	23	(9.2)	23	(7.5)	15	(6.0)	8	(4.9)	2	(2.5)	1	(0.9)	72	(6.2)
	5年以内	92	(36.3)	68	(22.4)	41	(16.3)	21	(13.2)	7	(9.6)	4	(3.3)	233	(20.2)
	10年以内	84	(33.2)	89	(29.3)	66	(26.4)	34	(21.8)	9	(12.6)	11	(9.8)	294	(25.5)
	20年以内	34	(13.3)	71	(23.4)	60	(24.0)	26	(16.4)	15	(21.0)	19	(16.8)	226	(19.6)
	30年以内	7	(2.8)	24	(8.0)	27	(10.5)	13	(8.1)	7	(9.0)	8	(7.2)	85	(7.4)
	30年より前	0	(0.0)	13	(4.2)	34	(13.6)	53	(33.9)	33	(44.8)	70	(61.9)	203	(17.6)
	計	254	(100.0)	303	(100.0)	252	(100.0)	158	(100.0)	74	(100.0)	114	(100.0)	1,153	(100.0)
女性	いま現在	7	(1.8)	8	(1.9)	4	(0.9)	1	(0.3)	0	(0.0)	1	(0.6)	20	(1.2)
	1年以内	41	(11.2)	27	(6.5)	17	(4.3)	5	(2.9)	2	(2.5)	5	(3.0)	97	(6.1)
	5年以内	90	(24.7)	75	(18.0)	41	(10.4)	15	(8.1)	2	(2.9)	4	(2.6)	227	(14.2)
	10年以内	142	(39.0)	114	(27.5)	73	(18.8)	21	(11.2)	6	(7.3)	7	(4.4)	364	(22.7)
	20年以内	76	(20.9)	147	(35.5)	108	(27.6)	36	(19.2)	11	(12.6)	25	(15.7)	402	(25.1)
	30年以内	9	(2.5)	31	(7.4)	74	(18.9)	34	(18.3)	3	(4.0)	16	(9.8)	167	(10.4)
	30年より前	0	(0.0)	13	(3.2)	75	(19.1)	74	(39.9)	60	(70.7)	102	(63.9)	324	(20.2)
	計	365	(100.0)	415	(100.0)	391	(100.0)	186	(100.0)	85	(100.0)	159	(100.0)	1,601	(100.0)
総計	いま現在	20	(3.2)	24	(3.3)	12	(1.8)	3	(1.0)	0	(0.3)	1	(0.4)	60	(2.2)
	1年以内	64	(10.4)	50	(6.9)	32	(5.0)	13	(3.8)	4	(2.5)	6	(2.1)	169	(6.1)
	5年以内	182	(29.4)	143	(19.9)	82	(12.7)	36	(10.4)	10	(6.0)	8	(2.9)	460	(16.7)
	10年以内	227	(36.6)	203	(28.3)	140	(21.7)	55	(16.1)	15	(9.7)	18	(6.7)	650	(23.9)
	20年以内	110	(17.8)	218	(30.4)	168	(26.2)	62	(17.9)	26	(16.5)	44	(16.1)	629	(22.8)
	30年以内	16	(2.6)	55	(7.6)	101	(15.7)	47	(13.6)	10	(6.3)	24	(8.7)	252	(9.2)
	30年より前	0	(0.0)	26	(3.6)	109	(16.9)	128	(37.2)	93	(58.7)	172	(63.0)	527	(19.2)
	計	619	(100.0)	717	(100.0)	643	(100.0)	344	(100.0)	159	(100.0)	273	(100.0)	2,754	(100.0)

②-3)性・年代別の自殺未遂の原因

▼時期問わず－男性

自殺未遂の原因 (時期問わず) 男性		家庭問題				健康問題				経済生活問題				勤務問題				男女問題				学校問題				その他			
		無		有		無		有		無		有		無		有		無		有		無		有		無		有	
		回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%
年代	20代	138	(54.6)	115	(45.4)	131	(51.5)	123	(48.5)	164	(64.7)	90	(35.3)	155	(61.3)	98	(38.7)	201	(79.2)	53	(20.8)	139	(55.0)	114	(45.0)	247	(97.5)	6	(2.5)
	30代	180	(59.5)	122	(40.5)	168	(55.6)	135	(44.4)	178	(58.9)	124	(41.1)	178	(58.9)	124	(41.1)	228	(75.4)	74	(24.6)	224	(73.9)	79	(26.1)	289	(95.5)	14	(4.5)
	40代	156	(61.9)	96	(38.1)	133	(52.8)	119	(47.2)	131	(52.0)	121	(48.0)	129	(51.4)	122	(48.6)	185	(73.4)	67	(26.6)	206	(81.7)	46	(18.3)	241	(95.9)	10	(4.1)
	50代	89	(56.1)	69	(43.9)	92	(58.0)	66	(42.0)	84	(53.1)	74	(46.9)	96	(60.9)	62	(39.1)	119	(75.6)	39	(24.4)	135	(85.6)	23	(14.4)	149	(94.4)	9	(5.6)
	60-64歳	41	(56.4)	32	(43.6)	48	(65.7)	25	(34.3)	44	(60.5)	29	(39.5)	43	(59.0)	30	(41.0)	50	(67.8)	24	(32.2)	59	(80.0)	15	(20.0)	71	(96.7)	2	(3.3)
	65歳以上	82	(72.1)	32	(27.9)	68	(59.7)	46	(40.3)	68	(59.5)	46	(40.5)	67	(58.7)	47	(41.3)	92	(80.7)	22	(19.3)	98	(86.6)	15	(13.4)	101	(88.6)	13	(11.4)
	計	686	(59.5)	467	(40.5)	639	(55.4)	514	(44.6)	669	(58.0)	484	(42.0)	669	(58.0)	484	(42.0)	875	(75.9)	278	(24.1)	861	(74.7)	292	(25.3)	1,098	(95.3)	55	(4.7)

▼時期問わず－女性

自殺未遂の原因 (時期問わず) 女性		家庭問題				健康問題				経済生活問題				勤務問題				男女問題				学校問題				その他			
		無		有		無		有		無		有		無		有		無		有		無		有		無		有	
		回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%	回答者数	%
年代	20代	169	(46.3)	196	(53.7)	202	(55.3)	163	(44.7)	284	(77.7)	82	(22.3)	289	(79.0)	77	(21.0)	252	(68.9)	113	(31.1)	204	(55.8)	161	(44.2)	349	(95.5)	16	(4.5)
	30代	171	(41.1)	244	(58.9)	226	(54.5)	188	(45.5)	304	(73.3)	111	(26.7)	326	(78.6)	89	(21.4)	259	(62.5)	156	(37.5)	286	(69.0)	129	(31.0)	400	(96.4)	15	(3.6)
	40代	189	(48.4)	202	(51.6)	216	(55.4)	174	(44.6)	287	(73.3)	104	(26.7)	320	(81.7)	71	(18.3)	263	(67.2)	128	(32.8)	281	(71.9)	110	(28.1)	371	(94.8)	20	(5.2)
	50代	68	(36.5)	118	(63.5)	104	(56.1)	82	(43.9)	130	(69.7)	56	(30.3)	160	(85.8)	27	(14.2)	127	(67.9)	60	(32.1)	143	(76.8)	43	(23.2)	175	(93.7)	12	(6.3)
	60-64歳	33	(39.2)	52	(60.8)	47	(55.0)	38	(45.0)	63	(73.8)	22	(26.4)	76	(89.0)	9	(11.0)	61	(71.8)	24	(28.2)	69	(81.6)	16	(18.4)	77	(90.6)	8	(9.4)
	65歳以上	54	(34.0)	105	(66.0)	97	(61.0)	62	(39.0)	114	(71.6)	45	(28.4)	145	(91.2)	14	(8.8)	103	(64.6)	56	(35.4)	142	(89.5)	17	(10.5)	142	(89.3)	17	(10.7)
	計	684	(42.7)	917	(57.3)	893	(55.8)	708	(44.2)	1,180	(73.7)	421	(26.3)	1,315	(82.1)	287	(17.9)	1,064	(66.5)	537	(33.5)	1,126	(70.3)	475	(29.7)	1,513	(94.5)	88	(5.5)

▼1年以内－男性

自殺未遂の原因 (1年以内) 男性			家庭問題			健康問題			経済生活問題			勤務問題			男女問題			学校問題			その他		
			無	有	計	無	有	計	無	有	計	無	有	計	無	有	計	無	有	計	無	有	計
年代	20代	%	(40.5)	(59.5)	(100.0)	(48.6)	(51.4)	(100.0)	(36.1)	(63.9)	(100.0)	(47.2)	(52.8)	(100.0)	(73.0)	(27.0)	(100.0)	(83.8)	(16.2)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)
	30代	%	(53.8)	(46.2)	(100.0)	(38.5)	(61.5)	(100.0)	(51.3)	(48.7)	(100.0)	(43.6)	(56.4)	(100.0)	(76.3)	(23.7)	(100.0)	(87.2)	(12.8)	(100.0)	(97.4)	(2.6)	(100.0)
	40代	%	(34.8)	(65.2)	(100.0)	(26.1)	(73.9)	(100.0)	(43.5)	(56.5)	(100.0)	(65.2)	(34.8)	(100.0)	(82.6)	(17.4)	(100.0)	(95.7)	(4.3)	(100.0)	(95.7)	(4.3)	(100.0)
	50代	%	(50.0)	(50.0)	(100.0)	(54.5)	(45.5)	(100.0)	(40.0)	(60.0)	(100.0)	(50.0)	(50.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(81.8)	(18.2)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)
	60～64歳	%	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(50.0)	(50.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)
	65歳以上	%	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	
合計		%	(43.8)	(56.3)	(100.0)	(39.8)	(60.2)	(100.0)	(44.1)	(55.9)	(100.0)	(50.5)	(49.5)	(100.0)	(79.3)	(20.7)	(100.0)	(87.6)	(12.4)	(100.0)	(98.2)	(1.8)	(100.0)

▼1年以内－女性

自殺未遂の原因 (1年以内) 女性		家庭問題			健康問題			経済生活問題			勤務問題			男女問題			学校問題			その他			
		無	有	計	無	有	計	無	有	計	無	有	計	無	有	計	無	有	計	無	有	計	
年代	20代	%	(38.3)	(61.7)	(100.0)	(33.3)	(66.7)	(100.0)	(70.8)	(29.2)	(100.0)	(70.2)	(29.8)	(100.0)	(57.4)	(42.6)	(100.0)	(81.3)	(18.8)	(100.0)	(97.9)	(2.1)	(100.0)
	30代	%	(34.3)	(65.7)	(100.0)	(34.3)	(65.7)	(100.0)	(61.8)	(38.2)	(100.0)	(82.4)	(17.6)	(100.0)	(65.7)	(34.3)	(100.0)	(85.7)	(14.3)	(100.0)	(97.1)	(2.9)	(100.0)
	40代	%	(45.0)	(55.0)	(100.0)	(28.6)	(71.4)	(100.0)	(75.0)	(25.0)	(100.0)	(75.0)	(25.0)	(100.0)	(90.0)	(10.0)	(100.0)	(95.2)	(4.8)	(100.0)	(95.0)	(5.0)	(100.0)
	50代	%	(16.7)	(83.3)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(33.3)	(66.7)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(83.3)	(16.7)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)
	60～64歳	%	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(50.0)	(50.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(50.0)	(50.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)
	65歳以上	%	(16.7)	(83.3)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	(100.0)	(0.0)	(100.0)	
	合計	%	(35.3)	(64.7)	(100.0)	(28.8)	(71.2)	(100.0)	(62.9)	(37.1)	(100.0)	(78.3)	(21.7)	(100.0)	(69.0)	(31.0)	(100.0)	(87.3)	(12.7)	(100.0)	(97.4)	(2.6)	(100.0)

④-1)「自殺未遂経験あり(1年以内)」と「自殺未遂経験なし」との要因・属性別自殺リスクの比較

「自殺未遂経験なし」をベースに「自殺未遂経験(1年以内、下記)」と「自殺未遂経験(1年以上前、未掲載)」を比較して、多項ロジスティック回帰分析をした結果。「その他(23件)」を含む40,436で分析している。説明変数は抜粋であり、係数(指数)はオッズ比としても表現できる。

自殺未遂1年以内 vs 自殺未遂なし		
	係数	標準誤差
(定数項)	-0.168	(0.003)
家族等からの虐待 (現在)	0.908	(0.005)
家庭内暴力 (現在)	0.283	(0.004)
家族の死亡 (現在)	0.474	(0.005)
離婚 (現在)	0.010	(0.004)
ひきこもり (現在)	0.155	(0.009)
生活苦 (現在)	0.329	(0.015)
アルコール依存 (現在)	0.273	(0.004)
精神疾患(うつ病) (現在)	1.469	(0.016)
精神疾患(その他) (現在)	0.491	(0.012)
身体疾患 (現在)	0.157	(0.012)
負債 (現在)	0.242	(0.006)
借金の取立て (現在)	0.070	(0.003)
職場や学校でのいじめ (現在)	0.463	(0.008)
職場環境の変化 (現在)	0.136	(0.008)
家族等からの虐待 (過去)	0.396	(0.012)
家族の死亡 (過去)	0.052	(0.009)
子育ての悩み (過去)	0.203	(0.006)
ひきこもり (過去)	0.146	(0.014)
アルコール依存 (過去)	0.671	(0.007)
薬物依存 (過去)	0.517	(0.005)
精神疾患(うつ病) (過去)	0.545	(0.016)
身体疾患 (過去)	0.341	(0.013)
事業不振 (過去)	0.242	(0.005)
借金の取立て (過去)	0.022	(0.005)
職場環境の変化 (過去)	0.271	(0.013)
職場や学校での人間関係の不和 (過去)	0.042	(0.019)
年齢	-0.045	(0.005)
性別(女性)	0.115	(0.004)
性別(その他)	-0.898	(0.000)
未婚	-0.233	(0.005)
離婚	0.250	(0.003)
死別	0.387	(0.001)
恋人あり	0.178	(0.004)
同居家族あり	0.129	(0.004)
配偶者と別居	0.093	(0.000)
貸家	-0.094	(0.006)
無職(求職中)	0.559	(0.002)
休職中	0.072	(0.001)
n		40436
AIC		17524.77

⑤-1) 20～39歳の就業状況・雇用形態別の自殺未遂経験あり(過去1年以内)

▼就業状況別-「過去1年以内に自殺未遂経験あり」

就業状況	20・30代 全体 (回答者数)	過去1年以内に 自殺未遂経験がある 20・30代(%)
在職	8,363	(1.0)
在職(休職中)	526	(2.6)
無職(求職中)	552	(2.2)
無職(仕事はしたいが、現在は求職していない)	1,323	(1.5)
無職(仕事をしたいと思っていない)	783	(2.3)
学生(学業専業)	533	(0.9)
学生(仕事もしている)	243	(4.1)
計	12,322	(1.3)

▼雇用形態別-「過去1年以内に自殺未遂経験あり」

雇用形態	20・30代 全体 (回答者数)	過去1年以内に 自殺未遂経験がある 20・30代(%)
正規の職員・従業員	6,811	(1.1)
パート・アルバイト	2,897	(1.7)
派遣社員・契約社員・嘱託	1,202	(1.2)
会社などの役員(会長・社長等も含む)	101	(4.8)
自営業主(個人経営の商店主等で雇い人は0人)	242	(1.6)
自営業主(個人経営の商店主等で雇い人は1人以上)	73	(1.0)
自家営業の手伝い(家族従業者)	133	(2.5)
自由業(開業医、弁護士、税理士、フリーライター、デザイナー等)	234	(0.6)
内職	94	(2.7)
その他	74	(0.9)
今まで仕事に就いたことがない	450	(1.1)
計	12,310	(1.3)

⑤-2) 自殺未遂経験者(過去1年以内)の直面するライフイベント: 20・30代と他年代の比較

Q20 の層別検定を行ったが、各要因の該当者数が少ないために 20・30 代が直面するライフイベントが他年代に比べて統計的に高いとはいえなかった。よって、ここでは 20・30 代と他年代別にライフイベントの経験率を示すにとどめる。20・30 代と 40 代以上の値が、誤差の範囲ではなく、統計的に差があるといえるものに関しては、P値欄に「***」「**」「*」(数が多いほど統計的に差がある)が表示されている。

<現在: 男女>

現在経験していること (Q20)	男性			女性		
	過去1年以内に 自殺未遂経験が ある 20・30代(%)	過去1年以内に 自殺未遂経験が ある 40代以上(%)	P値	過去1年以内に 自殺未遂経験が ある 20・30代(%)	過去1年以内に 自殺未遂経験が ある 40代以上(%)	P値
1.家族等からの虐待	(18.7)	(5.8)	0.124	(5.6)	(12.1)	0.499
2.家庭内暴力	(11.9)	(6.0)	0.524	(9.2)	(3.4)	0.394
3.家族の死亡	(19.9)	(11.4)	0.388	(6.3)	(9.2)	0.901
4.離婚	(15.7)	(11.1)	0.716	(2.7)	(0.0)	0.893
5.家族関係の不和	(30.3)	(27.4)	0.923	(30.9)	(33.5)	0.851
6.子育ての悩み	(8.4)	(14.4)	0.509	(14.4)	(16.6)	0.928
7.ひきこもり	(24.1)	(19.6)	0.763	(23.4)	(29.8)	0.638
8.看護・介護疲れ	(11.7)	(10.0)	1.000	(2.4)	(7.2)	0.714
9.生活苦	(47.3)	(46.0)	1.000	(27.0)	(43.7)	0.110
10.アルコール依存	(8.9)	(15.7)	0.453	(7.7)	(7.1)	1.000
11.薬物依存	(8.9)	(8.8)	1.000	(5.1)	(3.5)	1.000
12.ギャンブル依存	(14.8)	(8.7)	0.544	(3.0)	(0.0)	0.893
13.精神疾患(うつ病)	(41.8)	(54.9)	0.266	(48.3)	(65.6)	0.123
14.精神疾患(その他)	(25.8)	(17.0)	0.423	(36.7)	(22.2)	0.216
15.身体疾患	(30.3)	(17.5)	0.224	(25.5)	(26.8)	1.000
16.事業不振	(15.0)	(12.6)	0.953	(0.0)	(0.0)	-
17.倒産・失業	(13.0)	(20.3)	0.466	(3.9)	(5.2)	0.997
18.負債(多重債務、連帯保証 責務、住宅ローン等)	(15.5)	(25.3)	0.318	(7.3)	(12.1)	0.679
19.借金の取立て	(12.1)	(6.2)	0.515	(3.0)	(0.0)	0.893
20.職場や学校のいじめ	(24.2)	(13.7)	0.301	(5.0)	(3.7)	1.000
21.職場環境の変化 (配置転換、降格等)	(23.3)	(13.7)	0.349	(11.5)	(8.5)	0.991
22.職場や学校での人間関係の 不和	(36.6)	(18.8)	0.089 *	(11.8)	(6.5)	0.508
23.ブラック企業に勤務 (長時間労働、上司からの嫌がらせ、賃金不払い)	(24.5)	(16.9)	0.504	(3.2)	(0.0)	0.632
24.進路に関する悩み	(22.7)	(2.9)	0.016 **	(7.5)	(1.7)	0.613
25.失恋	(14.7)	(5.8)	0.285	(5.1)	(0.0)	0.452
26.その他	(4.4)	(0.0)	0.491	(2.3)	(3.6)	1.000
計	(100.0)	(100.0)	-	(100.0)	(100.0)	-

<現在:男女計>

現在経験していること (Q20)	男女計		P値
	過去1年以内に 自殺未遂経験が ある 20・30代(%)	過去1年以内に 自殺未遂経験が ある 40代以上(%)	
1.家族等からの虐待	(11.8)	(8.9)	0.657
2.家庭内暴力	(10.5)	(4.7)	0.242
3.家族の死亡	(12.8)	(10.3)	0.764
4.離婚	(8.9)	(5.8)	0.579
5.家族関係の不和	(30.6)	(30.4)	1.000
6.子育ての悩み	(11.5)	(15.5)	0.542
7.ひきこもり	(23.7)	(24.5)	1.000
8.看護・介護疲れ	(6.8)	(8.7)	0.817
9.生活苦	(36.7)	(44.9)	0.303
10.アルコール依存	(8.3)	(11.6)	0.592
11.薬物依存	(6.9)	(6.2)	1.000
12.ギャンブル依存	(8.6)	(4.5)	0.400
13.精神疾患(うつ病)	(45.2)	(60.1)	0.052 *
14.精神疾患(その他)	(31.5)	(19.5)	0.088 *
15.身体疾患	(27.8)	(22.0)	0.445
16.事業不振	(7.1)	(6.5)	1.000
17.倒産・失業	(8.2)	(13.0)	0.368
18.負債(多重債務、連帯保証 責務、住宅ローン等)	(11.2)	(19.0)	0.169
19.借金の取立て	(7.4)	(3.2)	0.358
20.職場や学校のいじめ	(14.1)	(8.9)	0.367
21.職場環境の変化 (配置転換、降格等)	(17.1)	(11.2)	0.341
22.職場や学校での人間関係の 不和	(23.6)	(12.9)	0.091 *
23.ブラック企業に勤務 (長時間労働、上司からの嫌がら せ、賃金不払い)	(13.3)	(8.8)	0.448
24.進路に関する悩み	(14.8)	(2.3)	0.010 ***
25.失恋	(9.7)	(3.0)	0.131
26.その他	(3.3)	(1.8)	0.844
計	(100.0)	(100.0)	-

<過去:男女>

過去に経験したこと(Q20)	男性			女性		
	過去1年以内に 自殺未遂経験が ある 20・30代(%)	過去1年以内に 自殺未遂経験が ある 40代(%)	P値	過去1年以内に 自殺未遂経験が ある 20・30代(%)	過去1年以内に 自殺未遂経験が ある 40代(%)	P値
1.家族等からの虐待	(28.3)	(7.2)	0.033 **	(29.7)	(24.7)	0.746
2.家庭内暴力	(13.0)	(5.1)	0.350	(26.2)	(20.5)	0.695
3.家族の死亡	(25.2)	(37.6)	0.610	(23.6)	(40.8)	0.101
4.離婚	(10.5)	(14.0)	0.929	(13.2)	(23.8)	0.256
5.家族関係の不和	(26.4)	(21.4)	0.773	(56.2)	(34.5)	0.053 *
6.子育ての悩み	(6.4)	(13.1)	0.417	(10.3)	(28.1)	0.032 **
7.ひきこもり	(18.6)	(19.9)	1.000	(32.9)	(28.9)	0.828
8.看護・介護疲れ	(4.9)	(8.0)	0.862	(5.4)	(15.6)	0.150
9.生活苦	(29.3)	(17.2)	0.417	(29.9)	(37.5)	0.565
10.アルコール依存	(13.5)	(17.5)	0.740	(7.6)	(10.3)	0.893
11.薬物依存	(9.9)	(2.9)	0.394	(8.6)	(6.2)	0.934
12.ギャンブル依存	(8.7)	(9.7)	1.000	(3.1)	(6.1)	0.824
13.精神疾患(うつ病)	(38.2)	(40.5)	0.602	(50.6)	(39.9)	0.390
14.精神疾患(その他)	(17.7)	(17.0)	0.987	(31.9)	(8.9)	0.018 **
15.身体疾患	(20.3)	(10.3)	0.258	(30.0)	(25.3)	0.772
16.事業不振	(5.1)	(16.6)	0.160	(3.4)	(0.0)	0.667
17.倒産・失業	(12.5)	(24.1)	0.236	(7.8)	(12.5)	0.650
18.負債(多重債務、連帯保証 責務、住宅ローン等)	(15.7)	(16.0)	1.000	(6.8)	(14.0)	0.379
19.借金の取立て	(11.3)	(5.8)	0.547	(2.4)	(9.8)	0.206
20.職場や学校のいじめ	(39.0)	(22.7)	0.195	(36.6)	(41.1)	0.817
21.職場環境の変化(配置転換、 降格等)	(27.4)	(26.6)	0.913	(20.6)	(23.2)	0.937
22.職場や学校での人間関係の 不和	(39.7)	(44.1)	0.861	(33.6)	(36.1)	0.969
23.ブラック企業に勤務(長時間労 働、上司からの嫌がらせ、賃金不 払い)	(30.3)	(15.2)	0.194	(14.4)	(25.0)	0.271
24.進路に関する悩み	(23.2)	(3.3)	0.017 **	(23.1)	(17.4)	0.667
25.失恋	(25.9)	(12.1)	0.192	(38.8)	(33.2)	0.711
26.その他	(1.7)	(0.0)	1.000	(2.3)	(10.3)	0.157
計	(100.0)	(100.0)	-	(100.0)	(100.0)	-

<過去：男女計>

過去に経験したこと (Q20)	男女計		P値
	過去1年以内に 自殺未遂経験が ある 20・30代(%)	過去1年以内に 自殺未遂経験が ある 40代以上(%)	
1.家族等からの虐待	(29.0)	(15.6)	0.062 *
2.家庭内暴力	(19.9)	(12.5)	0.261
3.家族の死亡	(24.3)	(39.1)	0.109
4.離婚	(11.9)	(18.7)	0.293
5.家族関係の不和	(42.0)	(27.7)	0.062 *
6.子育ての悩み	(8.5)	(20.3)	0.020 **
7.ひきこもり	(26.1)	(24.3)	0.796
8.看護・介護疲れ	(5.2)	(11.7)	0.149
9.生活苦	(29.6)	(27.0)	1.000
10.アルコール依存	(10.4)	(14.0)	0.541
11.薬物依存	(9.2)	(4.5)	0.355
12.ギャンブル依存	(5.8)	(8.0)	0.792
13.精神疾患(うつ病)	(44.7)	(40.2)	0.897
14.精神疾患(その他)	(25.1)	(13.1)	0.045 **
15.身体疾患	(25.4)	(17.6)	0.236
16.事業不振	(4.2)	(8.6)	0.367
17.倒産・失業	(10.0)	(18.5)	0.132
18.負債(多重債務、連帯保証 責務、住宅ローン等)	(11.0)	(15.0)	0.443
19.借金の取立て	(6.7)	(7.7)	0.985
20.職場や学校のいじめ	(37.8)	(31.5)	0.523
21.職場環境の変化 (配置転換、降格等)	(23.8)	(24.9)	1.000
22.職場や学校での人間関係の 不和	(36.5)	(40.3)	1.000
23.ブラック企業に勤務 (長時間労働、上司からの嫌がら せ、賃金不払い)	(22.0)	(19.9)	0.960
24.進路に関する悩み	(23.2)	(10.1)	0.032 **
25.失恋	(32.6)	(22.3)	0.178
26.その他	(2.0)	(5.0)	0.418
計	(100.0)	(100.0)	—

⑤-3) K6スコアの比較(日本財団調査 2016、内閣府幸福度調査 2013、国民生活基礎調査 2013、内閣府自殺意識調査 2011)

	日本財団調査 2016	内閣府幸福度調査 2013	国民生活基礎調査 2013	内閣府自殺意識調査 2011
0～8点	(60.2)	(72.7)	(87.1)	(87.7)
9～12点	(21.8)	(17.1)	(8.4)	(12.4)
13～18点	(12.9)	(7.8)	(3.5)	
19～24点	(2.5)	(1.1)	(1.0)	
平均値	(7.8)	(5.7)	(3.4)	非公表

⑩-1) 自殺念慮や自殺未遂を経験した際の相談状況

相談先 (%)	回答者全体	自殺念慮あり (時期間わず)	自殺未遂経験あり (1年以内)
配偶者	(5.1)	(5.1)	(13.0)
両親・祖父母	(7.8)	(7.8)	(12.6)
兄弟姉妹	(2.5)	(2.4)	(4.9)
子ども	(0.9)	(0.8)	(3.0)
親戚	(0.5)	(0.5)	(1.2)
恋人	(2.3)	(2.3)	(5.6)
学校(時代)の先生	(0.9)	(0.8)	(1.2)
学校(時代)の友人	(4.2)	(4.2)	(5.0)
学校外の友人	(2.1)	(2.1)	(3.5)
職場の上司・同僚	(1.3)	(1.3)	(3.2)
その他知人	(1.4)	(1.4)	(2.4)
カウンセラー・相談員	(3.8)	(3.8)	(10.9)
宗教関係者	(0.6)	(0.6)	(1.0)
公的機関の相談窓口	(0.7)	(0.8)	(3.7)
民間組織の相談窓口	(0.4)	(0.4)	(2.2)
医師・医療機関	(5.1)	(5.1)	(17.5)
法律の専門家	(0.3)	(0.3)	(2.3)
インターネットのサイト	(0.7)	(0.7)	(3.2)
テレビ番組・ラジオ番組・雑誌投稿	(0.1)	(0.1)	(0.6)
その他	(0.5)	(0.5)	(0.0)
誰にも相談しない	(73.8)	(73.9)	(51.1)

⑩-2) 相談しなかった理由

相談しなかった理由 (%)	回答者全体	自殺念慮あり (時期間わず)	自殺未遂経験あり (1年以内)
相談したいが遠慮して誰にも相談できない	(11.6)	(11.6)	(10.6)
相談したいが相談できる相手がいない	(17.5)	(17.6)	(17.6)
かつて相談したことがあるが不快な思いをした	(2.5)	(2.5)	(7.2)
相談したいがどこに相談したらよいか分からない	(3.9)	(3.9)	(1.1)
相談したいが誰かに相談することは恥ずかしいことだと思うので相談しない	(7.0)	(7.0)	(9.7)
相談する必要があるのに誰にも相談しない	(37.3)	(37.5)	(30.7)
その他	(4.2)	(4.2)	(1.8)
答えたくない	(16.1)	(15.8)	(21.5)
計	(100.0)	(100.0)	(100.0)

⑩-3) 医師・医療機関を受診しなかった理由

医師・医療機関を受診しなかった理由 (%)	回答者全体	自殺念慮あり (時期間わず)	自殺未遂経験あり (1年以内)
交通手段、子供の世話、スケジュールなど治療にゆくことに支障があった	(13.8)	(1.0)	(2.3)
治療には時間がかかったり、不便だと思った	(23.2)	(1.4)	(3.6)
自分が治療を受けていることが知られたら、他人がどう思うか心配だった	(9.6)	(2.2)	(1.7)
その問題は最初、それほど困らなかった	(5.0)	(5.0)	(5.0)
費用がどれくらいかかるか心配だった	(14.1)	(7.9)	(14.2)
その他	(2.2)	(8.9)	(6.8)
問題はひとりでに改善するだろうと思っていた	(1.5)	(9.6)	(6.2)
治療が、効果があるとは思わなかった	(12.8)	(12.8)	(15.8)
医師や医療機関を信用できなかった	(1.0)	(13.9)	(21.1)
どこに行けばよいか、誰に診てもらえば良いかわからなかった	(8.0)	(14.2)	(8.5)
自力で問題に対処したかった	(8.9)	(23.2)	(14.9)
計	(100.0)	(100.0)	(100.0)

7 相談窓口一覧

自殺を考えるほどつらい気持ちを抱えている方、大切な人を自殺で亡くされた方へ。その思いを、ひとりで抱え込まずに相談してみませんか。

【自殺を考えるほどつらいとき】

こころの健康相談統一ダイヤル

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000117743.html>

0570-064-556 （各都道府県・政令指定都市によって対応する曜日・時間が異なります）

NPO 法人国際ビフレンダーズ 東京自殺防止センター

<http://www.befrienders-jpn.org/>

03-5286-9090 （午後8時～翌朝午前6時（火曜日は午後5時～翌朝午前6時）、年中無休）

※ホームページではその他の常設の電話相談窓口を探すことができます。

日本いのちの電話

<http://www.inochinodenwa.org/>

ナビダイヤル 0570-783-556 （午前10時～午後10時）

フリーダイヤル 0120-783-556 （フリーダイヤル、午前8時～翌日午前8時、毎月10日）

※ホームページでは各地のいのちの電話を探すことができます。

【大切な方を自殺で亡くされたとき】

自死遺族相談ダイヤル（自死遺族のための電話相談）

<http://www.izoku-center.or.jp/>

03-3261-4350 （午前11時～午後7時、毎週木曜日）

自死遺族傾聴電話（悲しみの傾聴）

<http://www.jishi-griefcare.org/>

03-3796-5453 （午前10時～午後6時、毎週火曜日、木曜日、土曜日）

【どこに相談したらいいか迷われているとき】

よりそいホットライン（どんな悩みにもよりそいます）

<http://279338.jp/yorisoi/#call>

0120-279-338 （フリーダイヤル、24時間対応、年中無休）

いのちと暮らしの相談ナビ

（インターネット上で、ご自身の悩みや状況、お住まいの地区別に相談先を検索できます）

<http://lifelink-db.org/>

謝辞

『日本財団自殺意識調査 2016』の実施にあたり、日本の自殺念慮・自殺未遂経験の実態を解明し、効果的な対策につなげるべく、快くご協力をいただいた「日本財団自殺意識調査チーム」のアドバイザー及びチームメンバーの皆さまに深く感謝申し上げます。

アドバイザーボードリーダーの高橋義明先生(公益財団法人世界平和研究所 主任研究員)には、企画時から日本財団の呼びかけに対して快くご協力いただき、社会調査や統計学の観点より、調査設計、集計・分析、報告書作成等を主導していただきました。NPO 法人ライフリンクの清水康之代表には、企画の段階から、自殺の現状や自殺対策の最前線における実情に基づいて貴重なアドバイスをいただき、調査を社会的意義の高いものにしていただきました。崎坂香屋子先生(帝京大学大学院 公衆衛生学研究科 准教授)には、公衆衛生の観点から、本調査の最も大きなポイントである若年層のデータについて、分析結果に基づき、重要な見解をご教示いただきました。田辺俊介先生(早稲田大学文学学術院 准教授)には、質問票作成の際に心理学の観点から貴重なご意見をいただき、本調査に心理的な側面を盛り込むことができました。

また、本調査の具体的な実施においては、質問票や資料の作成、報告書作成等にご協力いただいたチームメンバーの根岸親さん、堀遼一さん、小牧奈津子さん(NPO 法人ライフリンク)のお力添えがなければここまで完成することはできませんでした。誠にありがとうございました。データの回収、集計、報告書の作成等において、ご尽力いただいた株式会社RJCリサーチの高橋由江さん、久野和英さんにも感謝申し上げます。

最後に、分析の一部に東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJデータアーカイブから『生活の質に関するインターネットアンケート調査, 2012(内閣府経済社会総合研究所)』の個票データの提供を受けました。なお、当該データの利用申請、入手、分析、管理は高橋義明先生が行い、他の関係者は個票データファイルには触れていません。